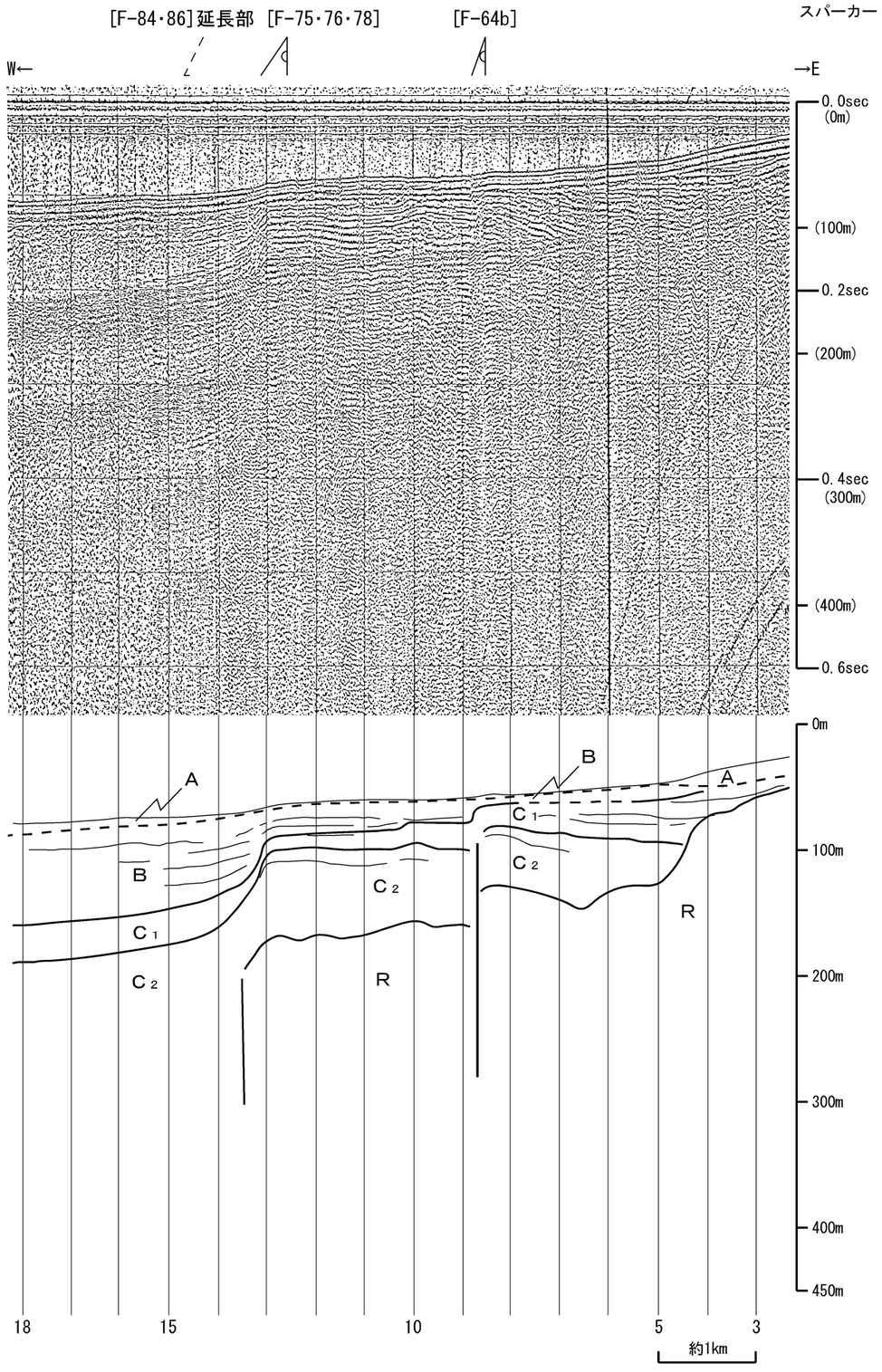
No. 40-2

海保(1980)
スパーカー



音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。

地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

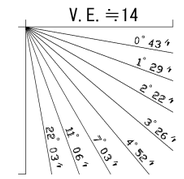
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

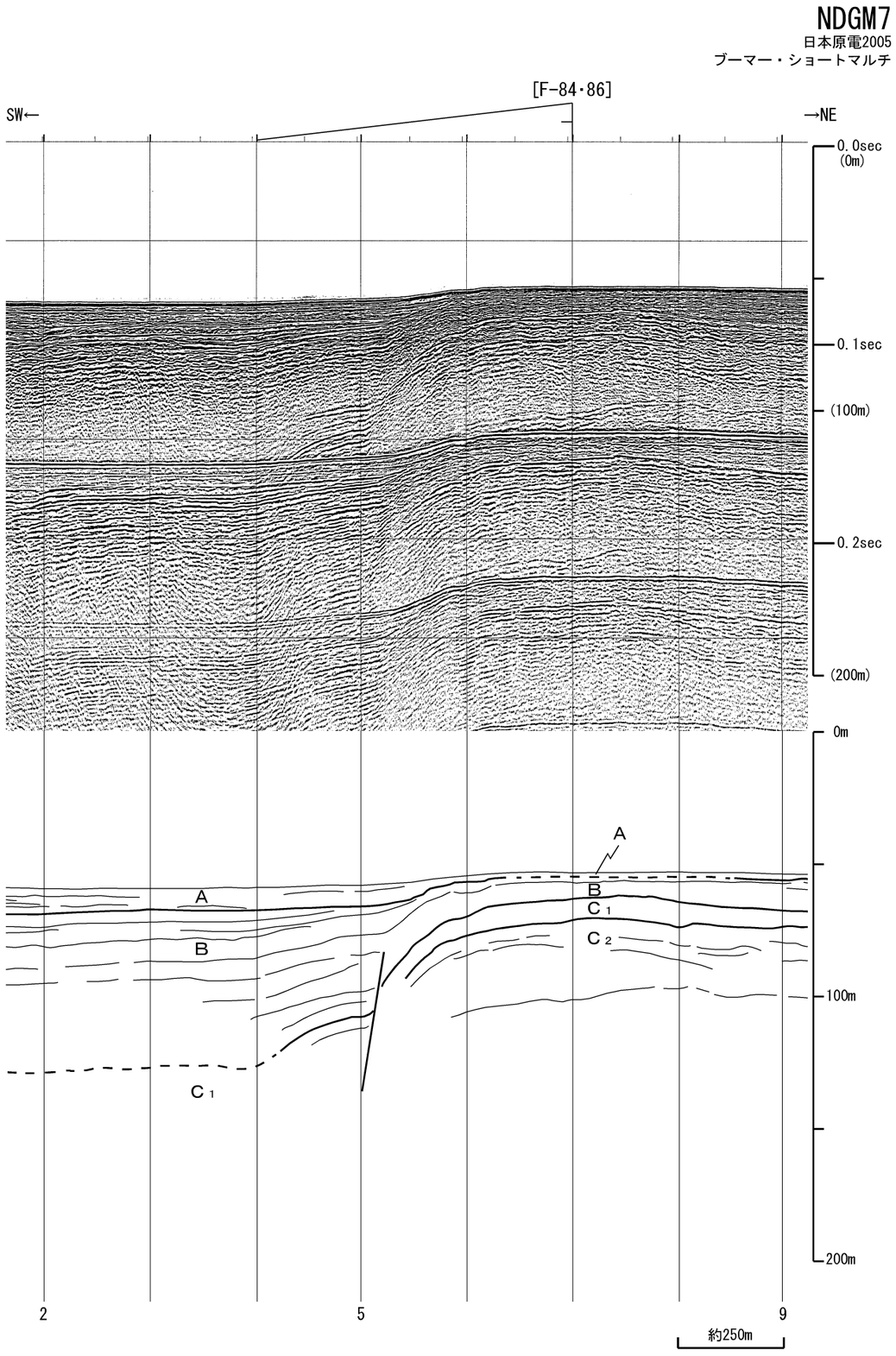
推定地層境界



数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.27図(1)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（No.40-2）

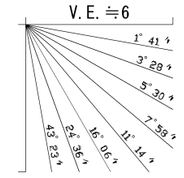


凡　例

[F-21]	断層及び断層番号
[F-2]	撓曲及び撓曲番号
基部 / 頂部	変形の及んでいる範囲
[F-2]延長部 / 基部の延長位置	断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A	A層　完新統
B	B層　上部更新統
C (C1 C2 C3 C4)	C層　最上部鮮新統～中部更新統
D	D層　下部～上部鮮新統
R	R層　先鮮新統～最下部鮮新統
	断層
	推定断層
	地層境界
	推定地層境界

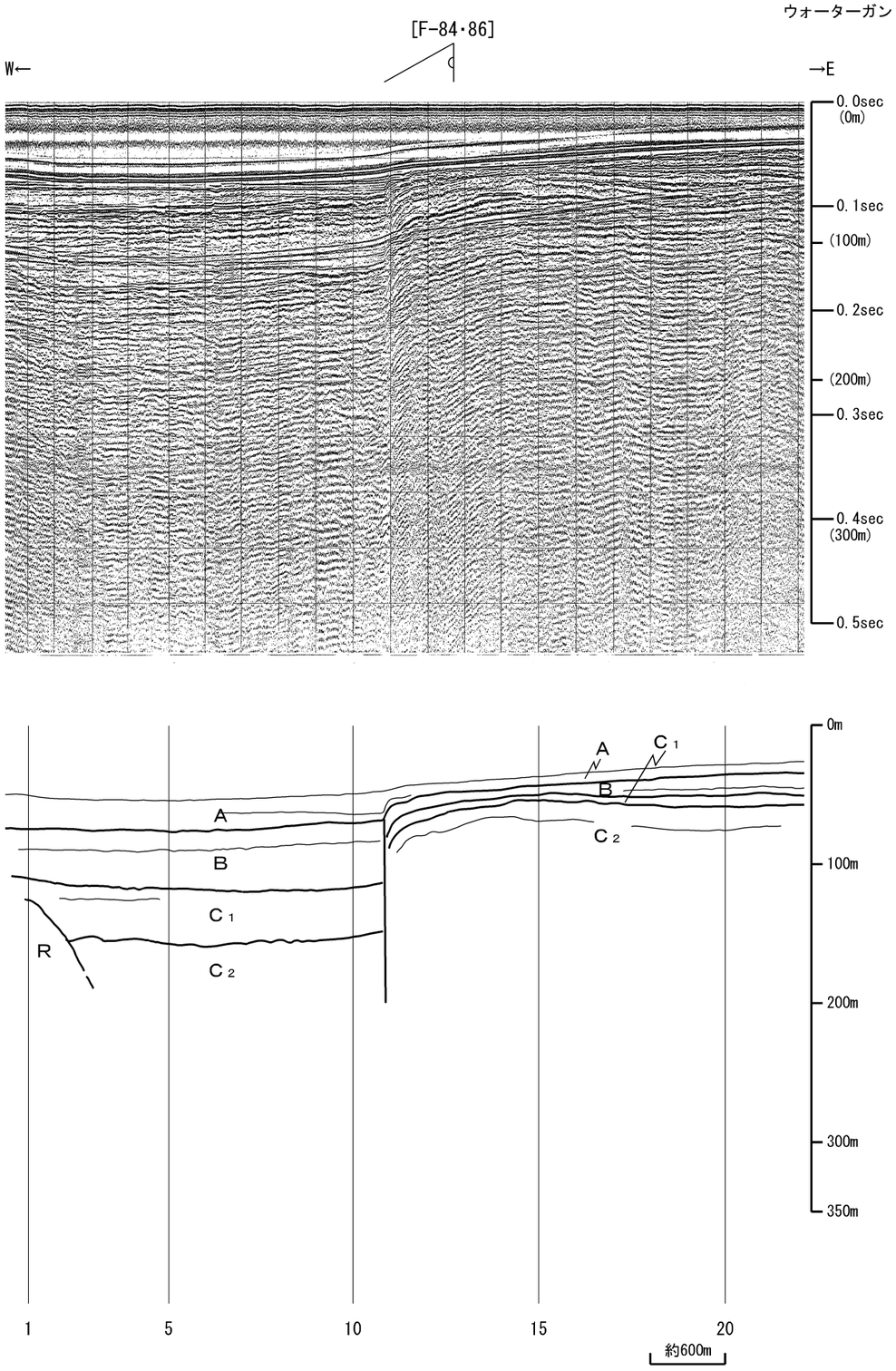


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.27図(2)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（NDGM7）

AW46E
日本原電1998
ウォーターガン



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部　頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部
基部の延長位置　断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

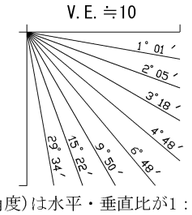
断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

V.E. ≒10



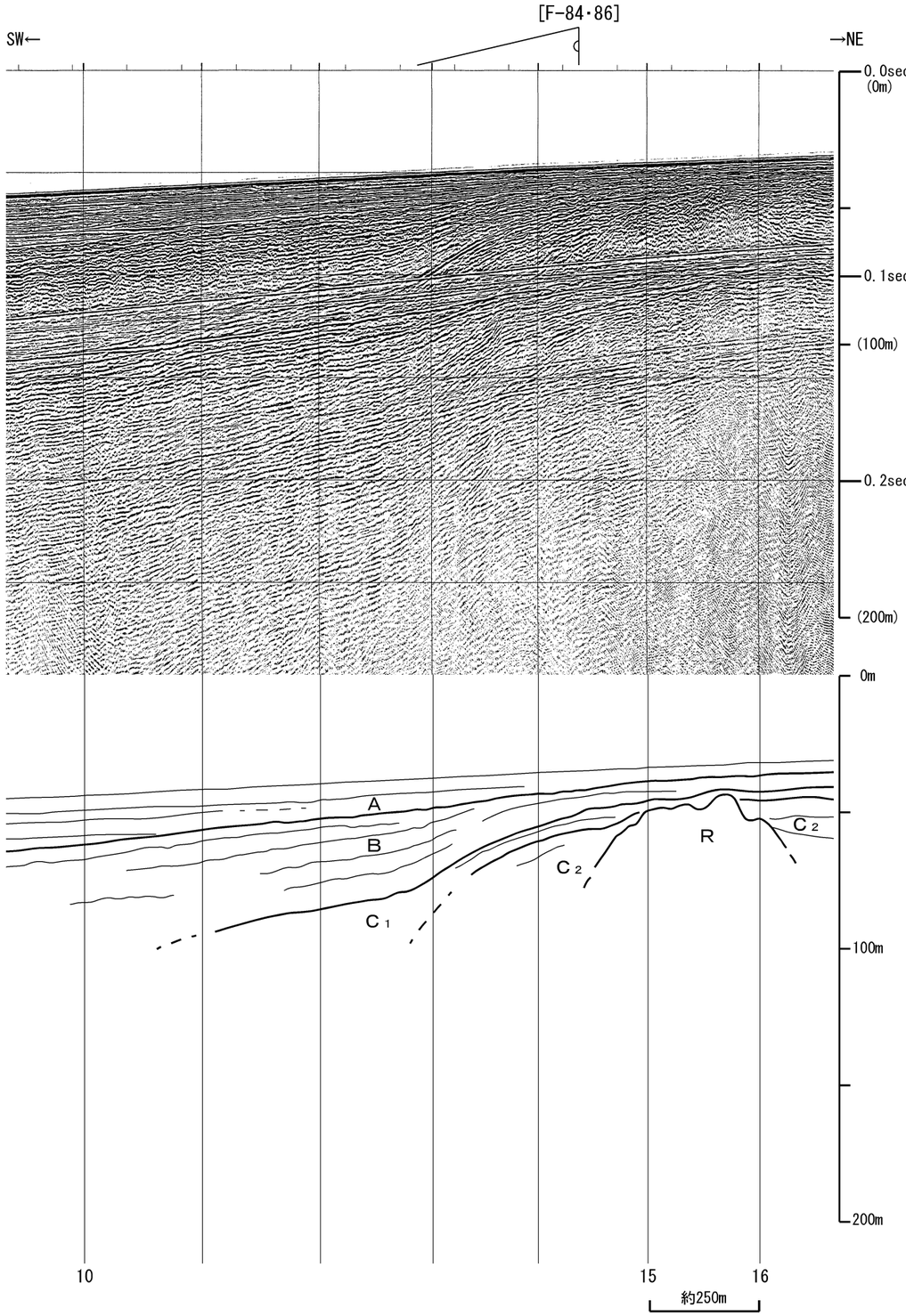
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.27図(3)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（AW46E）

NDGM17

日本原電2005
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部　頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部　断層又は撓曲の延長位置

基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

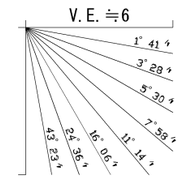
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

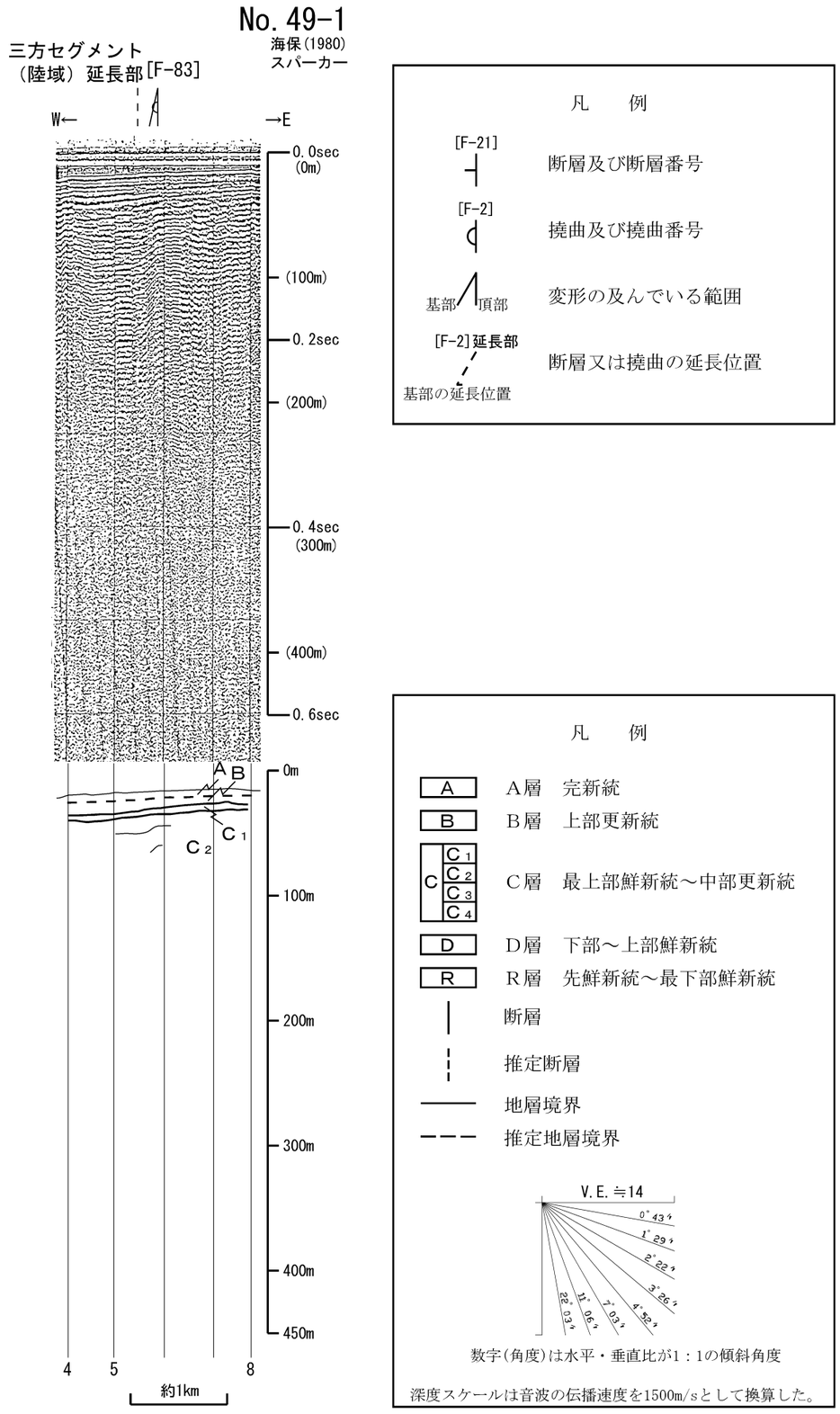


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.27図(4)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（NDGM17）

音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。
地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

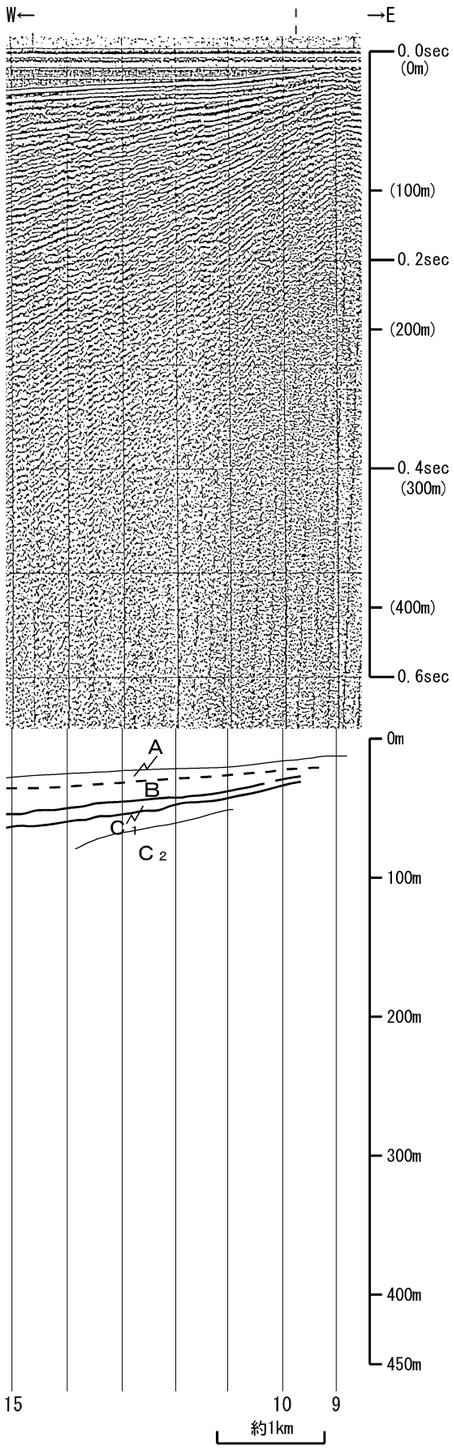


第1.2.3.1.27図(5)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（No.49-1））

No. 105-6

海保(1980)
スパーカー

三方セグメント
（陸域）延長部



音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。

地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

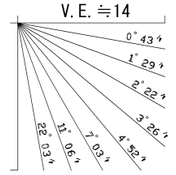
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

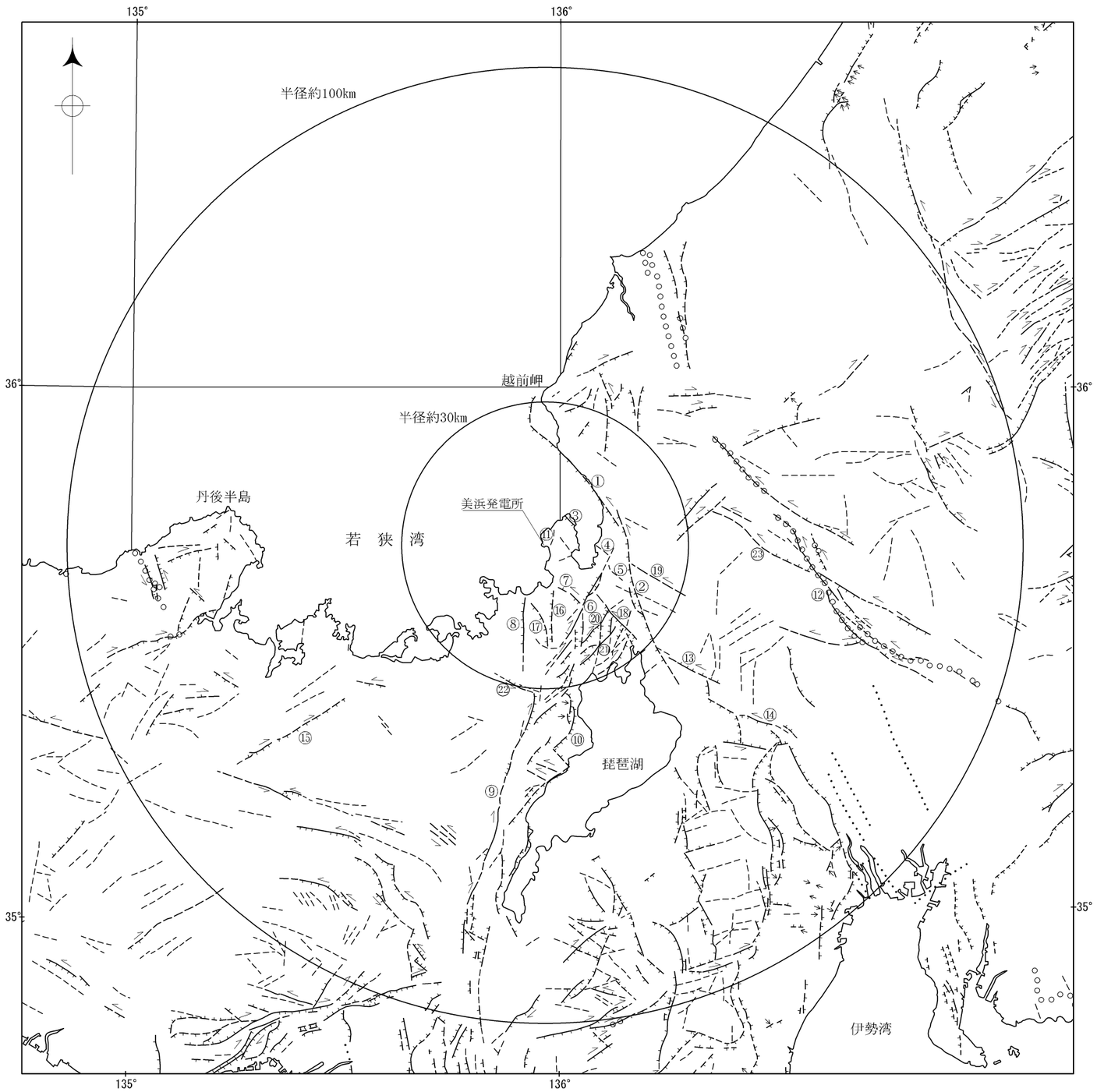
推定地層境界



数字（角度）は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.1.27図(6)　三方断層（海域）の海上音波探査記録及び地質断面図（No.105-6）



凡　例

陸上活断層

- 活断層であることが確実なもの（確実度Ⅰ）
- 活断層であると推定されるもの（確実度Ⅱ）
- 活断層の疑いのあるリニアメント（確実度Ⅲ）

短線は縦ずれの低下側、矢印は横ずれのむきを示す

- 伏在断層
- 地震断層

活傾動

- 地形面の傾き下る方向

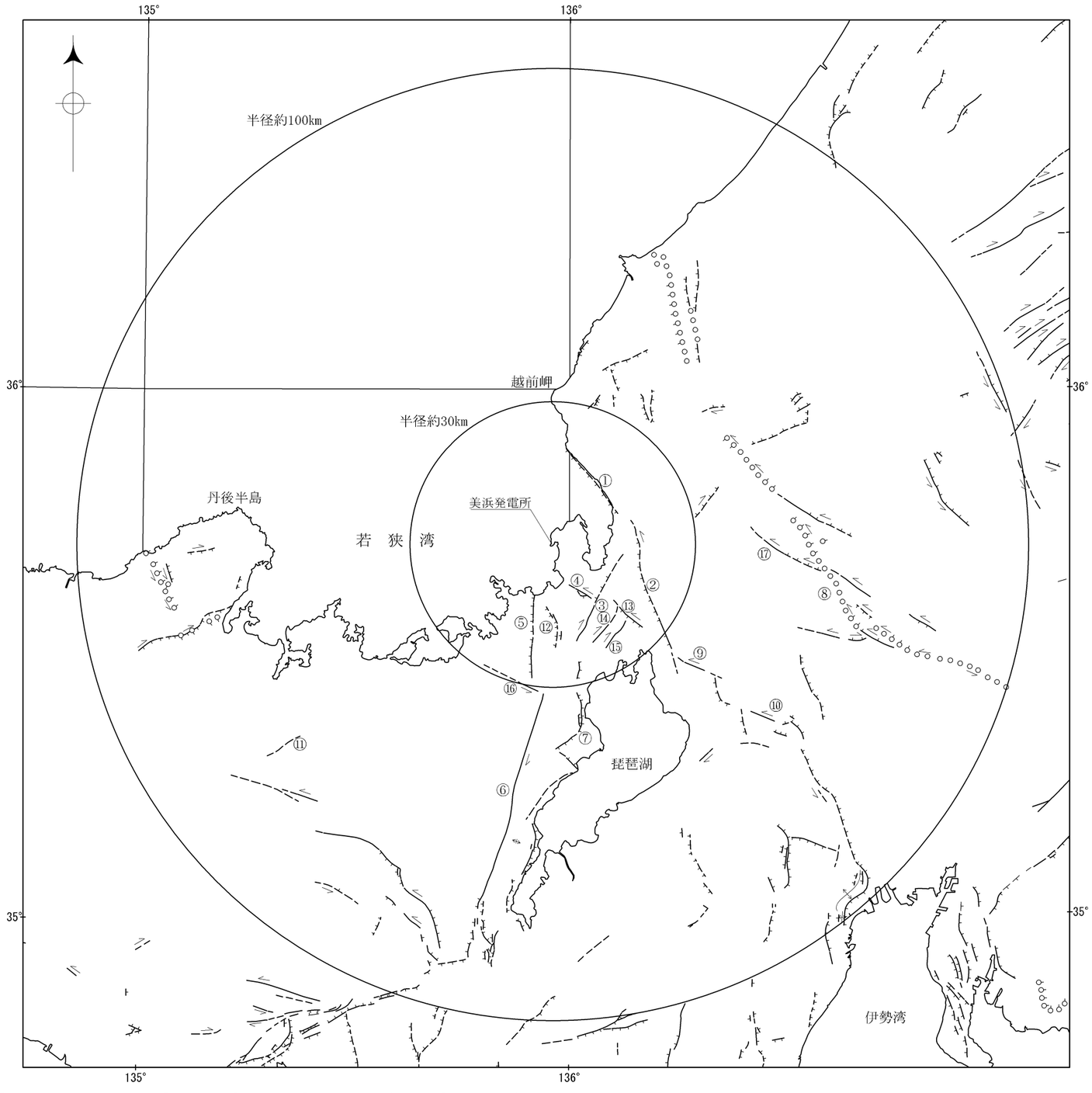
①	甲楽城断層
②	柳ヶ瀬断層
③	浦底断層
④	ウツロギ峠
⑤	池河内断層
⑥	敦賀断層
⑦	野坂断層
⑧	三方断層
⑨	花折断層
⑩	琵琶湖西岸断層系
⑪	白木－丹生
⑫	濃尾地震断層系
⑬	鍛冶屋断層
⑭	関ヶ原断層
⑮	上林川断層
⑯	奥－松屋
⑰	耳川断層
⑱	集福寺断層
⑲	奥川並断層
⑳	駄口断層
㉑	路原断層
㉒	熊川断層
㉓	揖斐川断層

1:1,000,000

0　25　50km

第1.2.3.1.28図　敷地周辺陸域の活断層分布図「［新編］日本の活断層」

（半径約100km）



※『50万分の1活構造図「岡山」「金沢」「京都（第2版）」』より作成

凡　例

○○○○○○○	地震断層
———	活断層（主として第四紀後期に活動したもの）
– – – –	推定活断層（同上）
○○○○○○	上記の断層における変位の向き（矢印は走向ずれの方向、ケバは落下側を示す）
⇕	第四紀後期層の背斜軸

①	甲楽城断層
②	柳ヶ瀬断層
③	敦賀断層
④	野坂断層
⑤	三方断層
⑥	花折断層
⑦	琵琶湖西岸断層系
⑧	濃尾地震断層系
⑨	鍛冶屋断層
⑩	関ヶ原断層
⑪	上林川断層
⑫	耳川断層
⑬	集福寺断層
⑭	駄口断層
⑮	路原断層
⑯	熊川断層
⑰	揖斐川断層

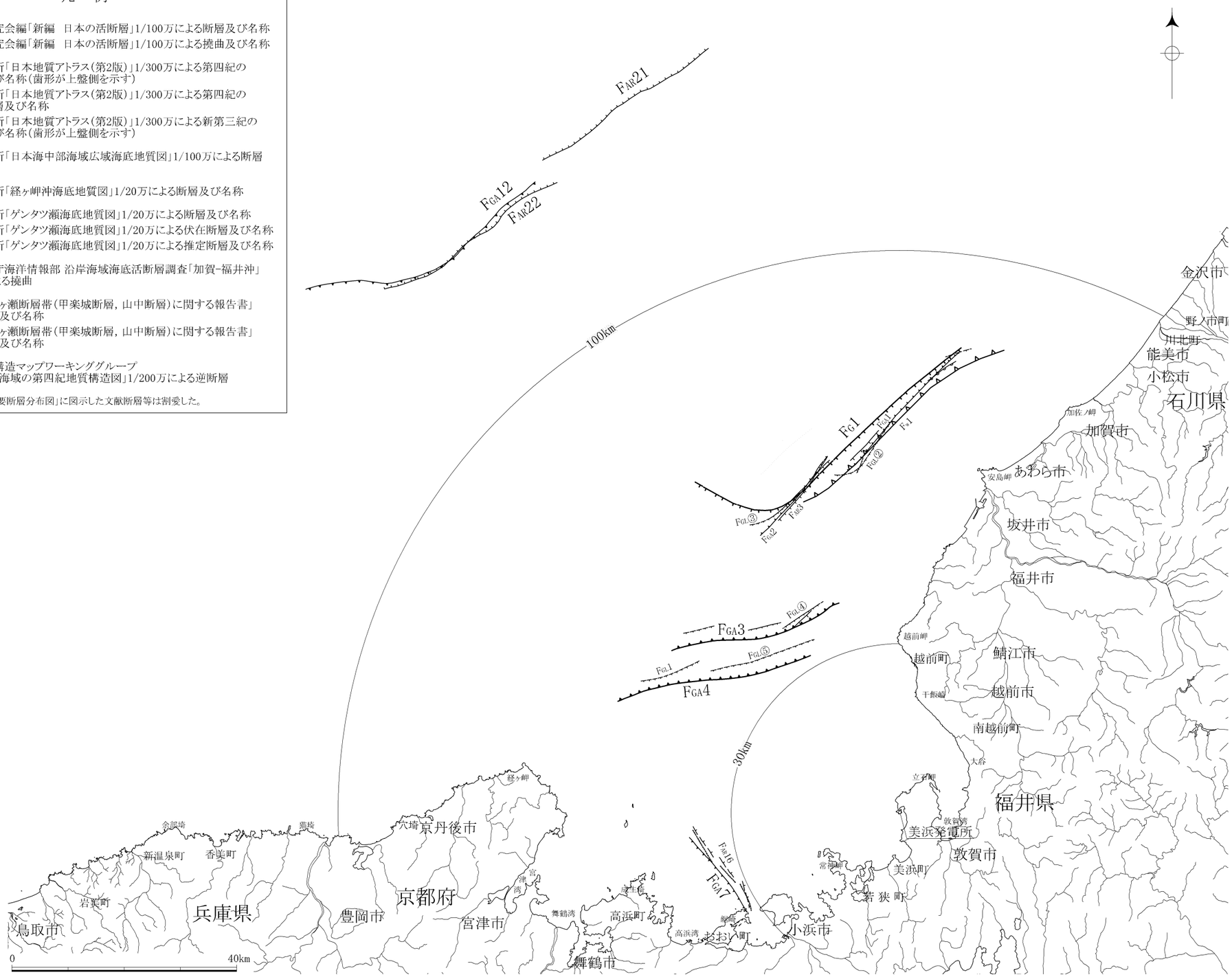
1:1,000,000
0　25　50km

第1.2.3.1.29図　敷地周辺陸域の活断層分布図「活構造図」
（半径約100km）

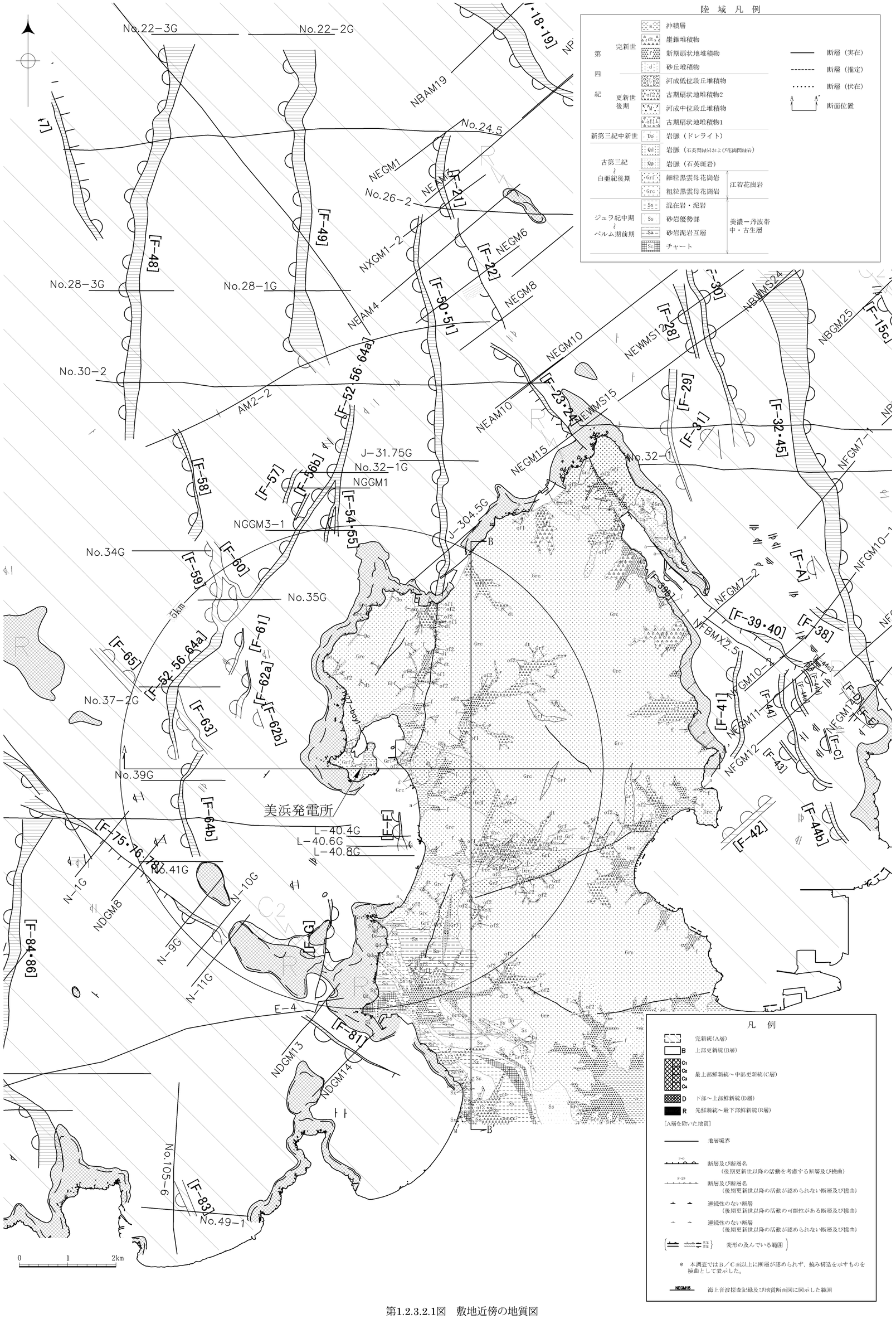
凡　例

- Fa3 / Fa5　活断層研究会編「新編　日本の活断層」1/100万による断層及び名称
- Fa5　活断層研究会編「新編　日本の活断層」1/100万による撓曲及び名称
- FGA7　地質調査所「日本地質アトラス（第2版）」1/300万による第四紀の逆断層及び名称（歯形が上盤側を示す）
- FGA9　地質調査所「日本地質アトラス（第2版）」1/300万による第四紀の横ずれ断層及び名称
- FGA4　地質調査所「日本地質アトラス（第2版）」1/300万による新第三紀の逆断層及び名称（歯形が上盤側を示す）
- Fg1　地質調査所「日本海中部海域広域海底地質図」1/100万による断層及び名称
- Fg1.3　地質調査所「経ヶ岬沖海底地質図」1/20万による断層及び名称
- Fg1.④　地質調査所「ゲンタツ瀬海底地質図」1/20万による断層及び名称
- Fg1.③　地質調査所「ゲンタツ瀬海底地質図」1/20万による伏在断層及び名称
- Fg1.⑧　地質調査所「ゲンタツ瀬海底地質図」1/20万による推定断層及び名称
- 海上保安庁海洋情報部 沿岸海域海底活断層調査「加賀-福井沖」1/10万による撓曲
- Fk-1　福井県「柳ヶ瀬断層帯（甲楽城断層，山中断層）に関する報告書」による断層及び名称
- Fk-3　福井県「柳ヶ瀬断層帯（甲楽城断層，山中断層）に関する報告書」による撓曲及び名称
- Fs1　海域地質構造マップワーキンググループ「日本周辺海域の第四紀地質構造図」1/200万による逆断層

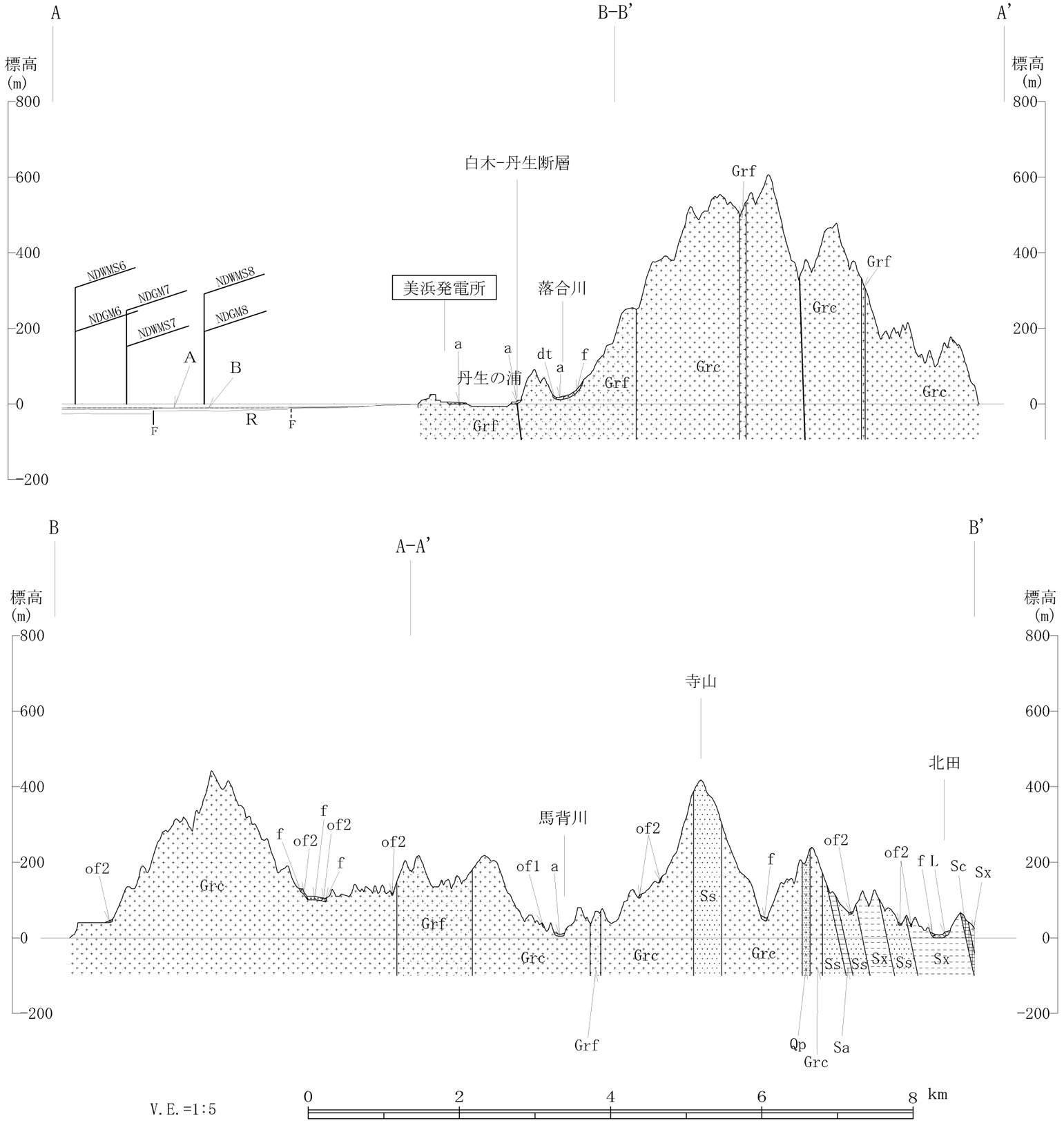
＊「敷地前面海域の主要断層分布図」に図示した文献断層等は割愛した。



第1.2.3.1.30図　敷地周辺海域の主要断層分布図



第1.2.3.2.1図　敷地近傍の地質図



陸域凡例

第四紀	完新世	a	沖積層
		dt	崖錐堆積物
		f	新期扇状地堆積物
	更新世後期	fL	河成低位段丘堆積物
		of2	古期扇状地堆積物2
		of1	古期扇状地堆積物1
古第三紀～白亜紀後期		Qtz	岩脈（石英斑岩）
		Grf	細粒黒雲母花崗岩（江若花崗岩）
		Grc	粗粒黒雲母花崗岩（江若花崗岩）
ジュラ紀中期～ペルム期前期		Sx	混在岩・泥岩（美濃・丹波帯）
		Ss	砂岩優勢部（美濃・丹波帯）
		Sa	砂岩泥岩互層（美濃・丹波帯）
		Sc	チャート（美濃・丹波帯）

断層（実在）

海域凡例

A	A層　完新統
B	B層　上部更新統
R	R層　先鮮新統～最下部鮮新統

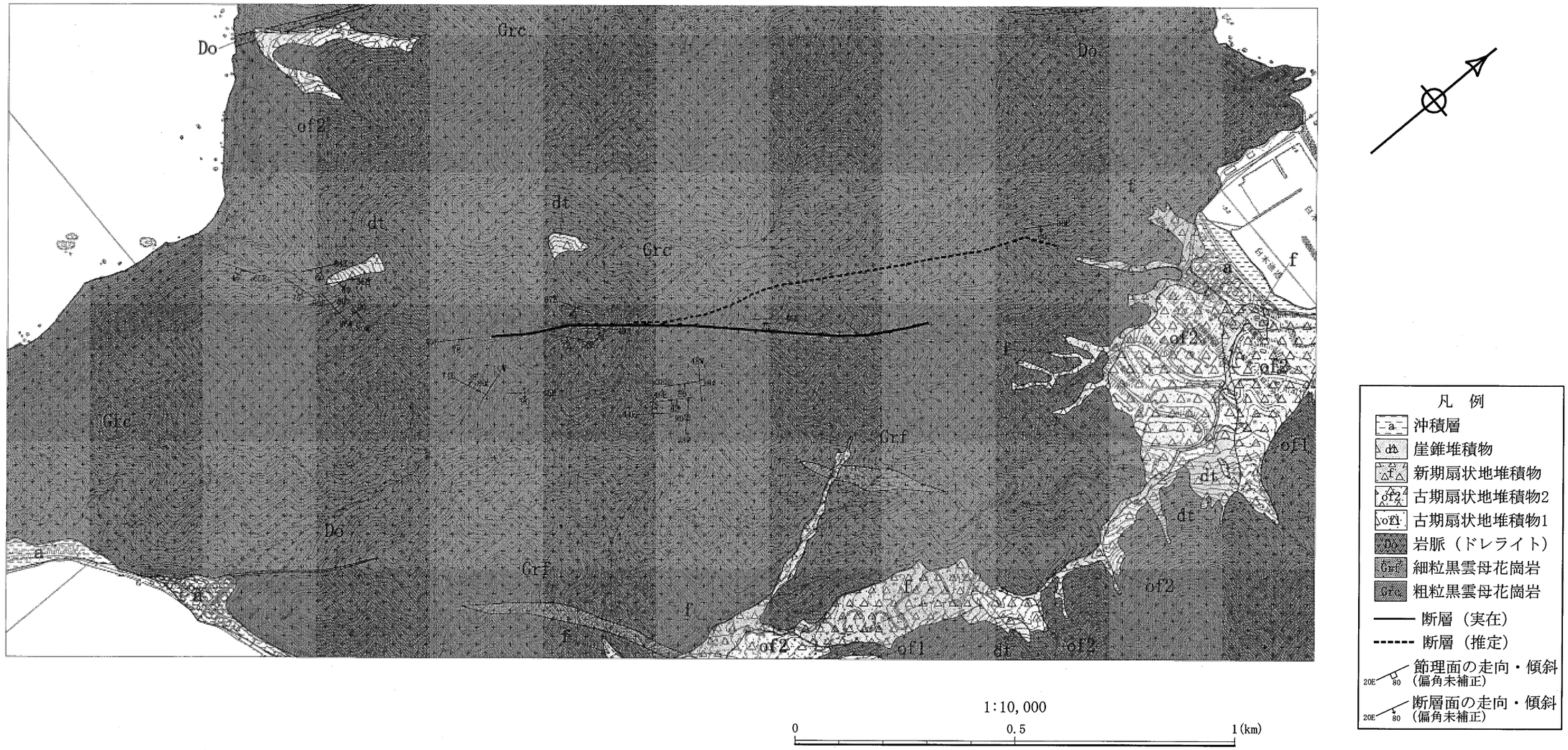
断層 F

推定断層 F

地層境界

推定地層境界

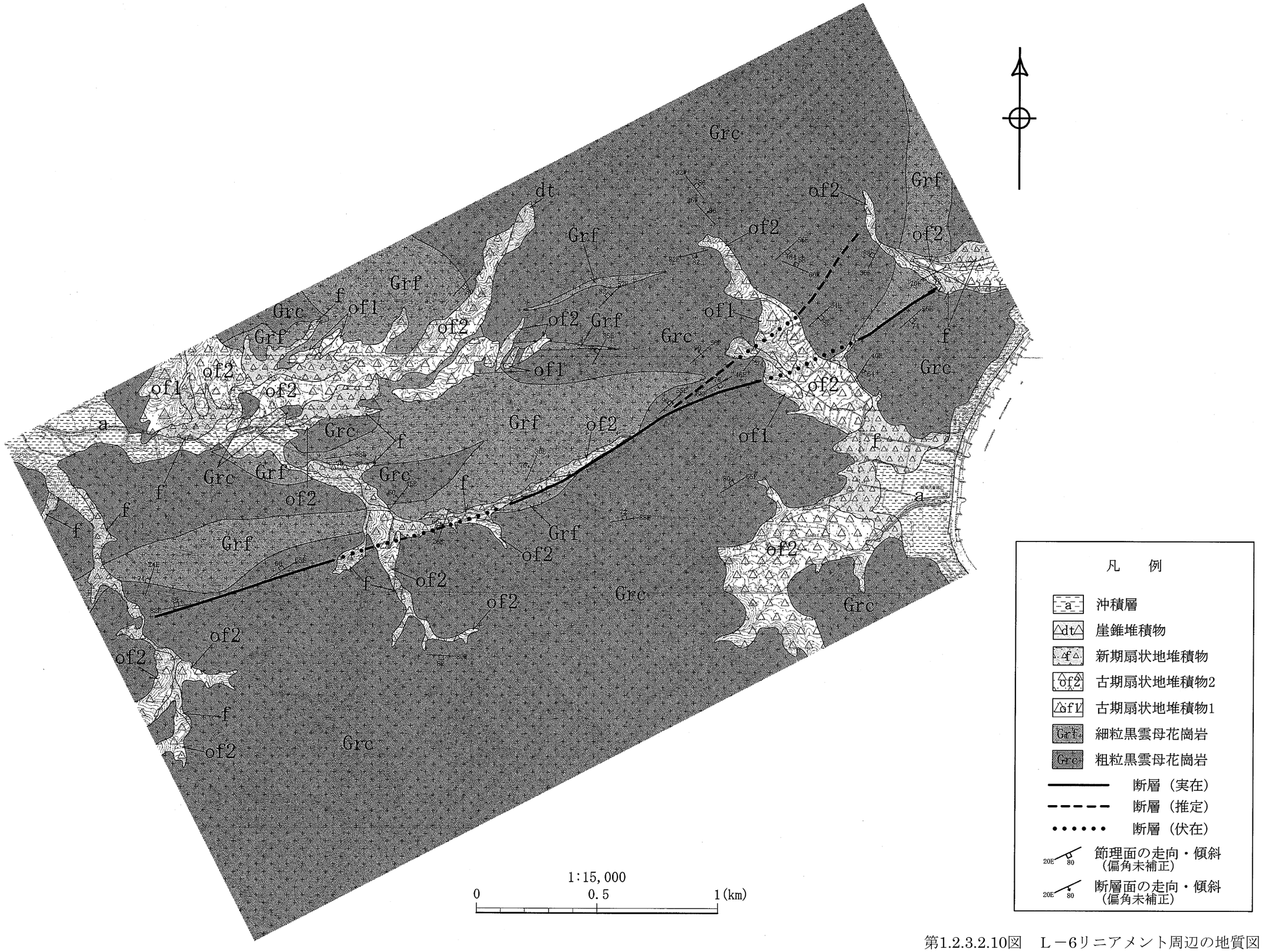
第1.2.3.2.2図　敷地近傍の地質断面図



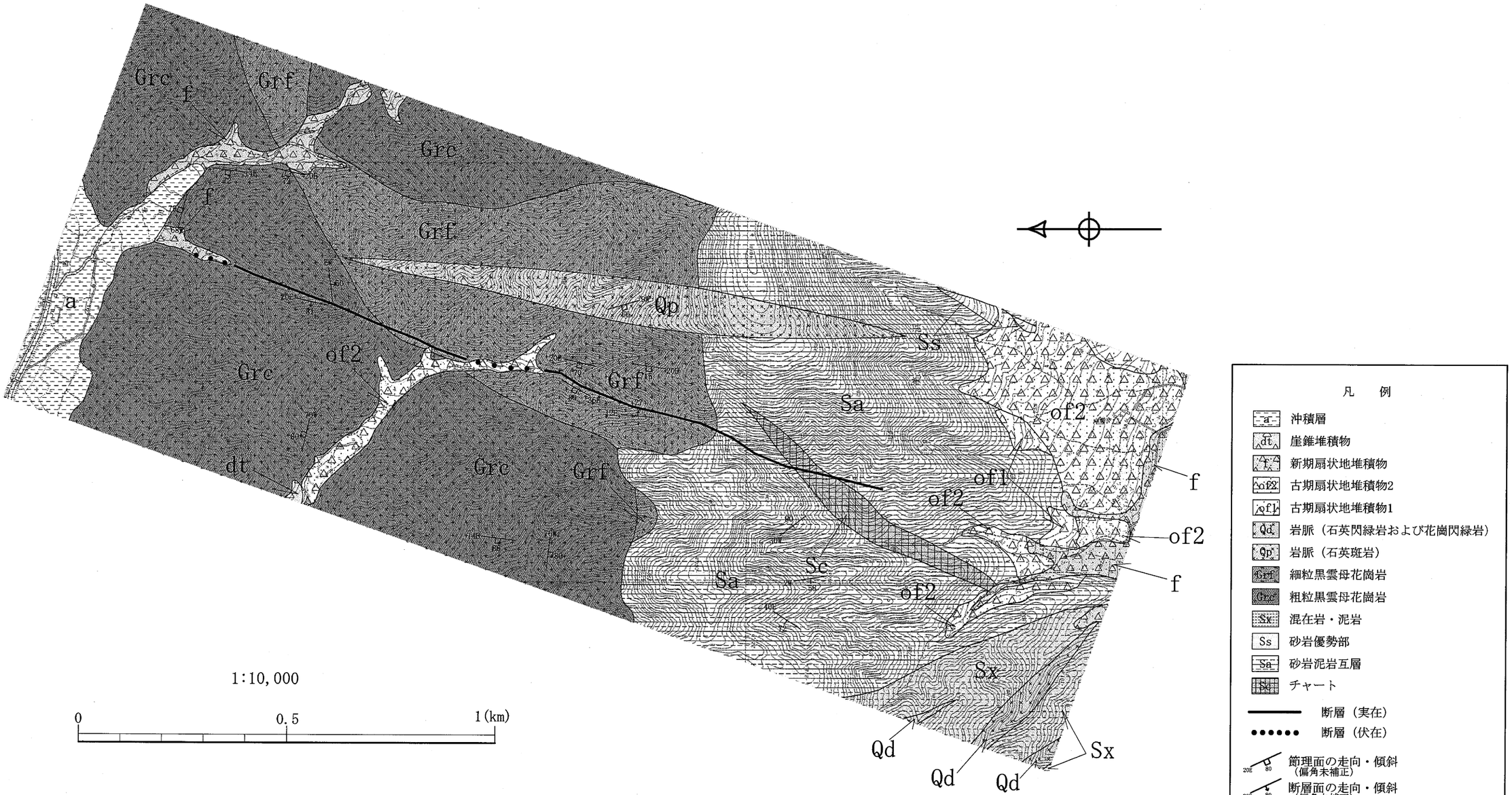
1:10,000

0　0.5　1(km)

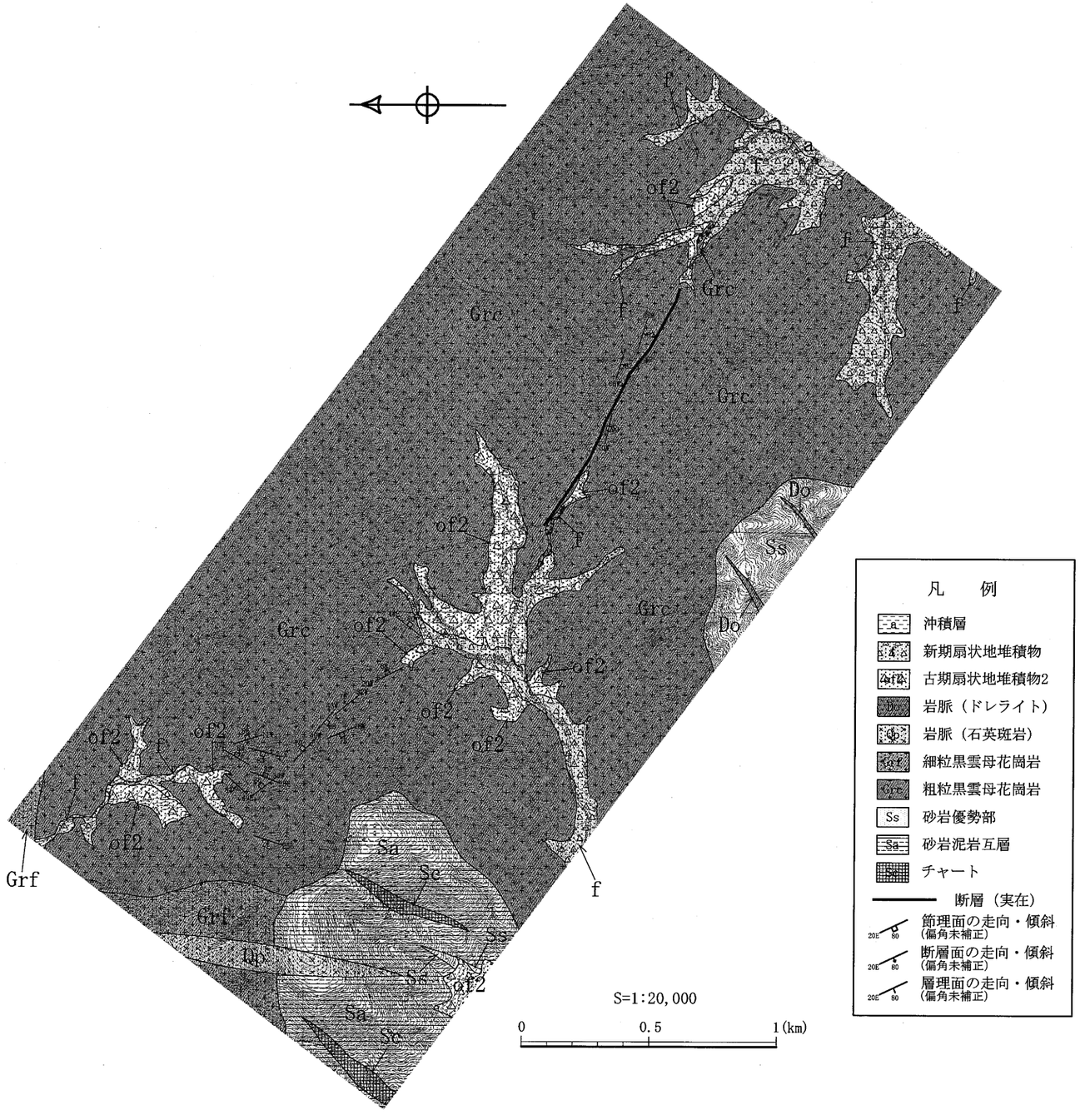
第1.2.3.2.9図　Ｌ－5リニアメント周辺の地質図



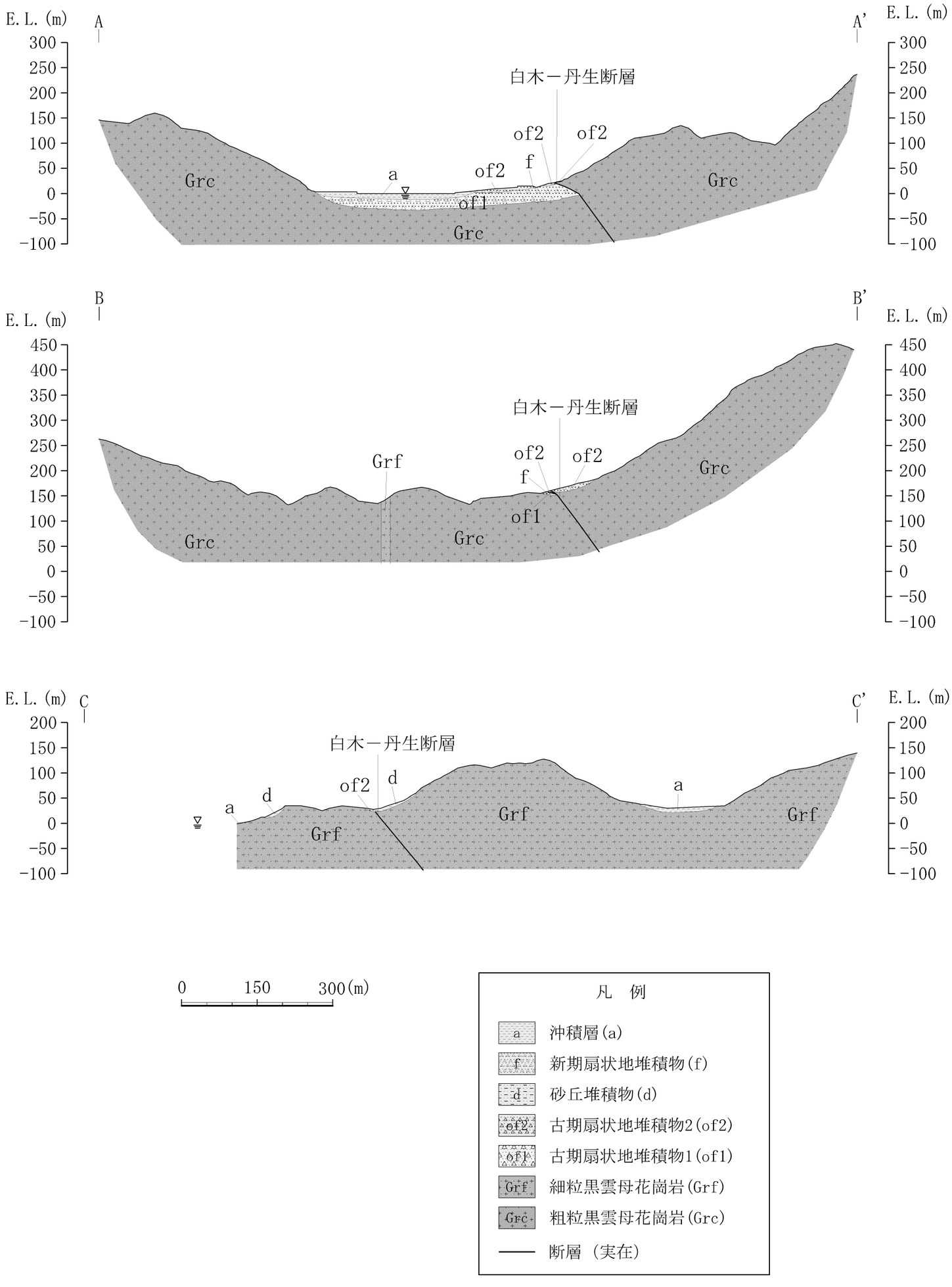
第1.2.3.2.10図　Ｌ－6リニアメント周辺の地質図



第1.2.3.2.11図　Ｌ－7リニアメント周辺の地質図



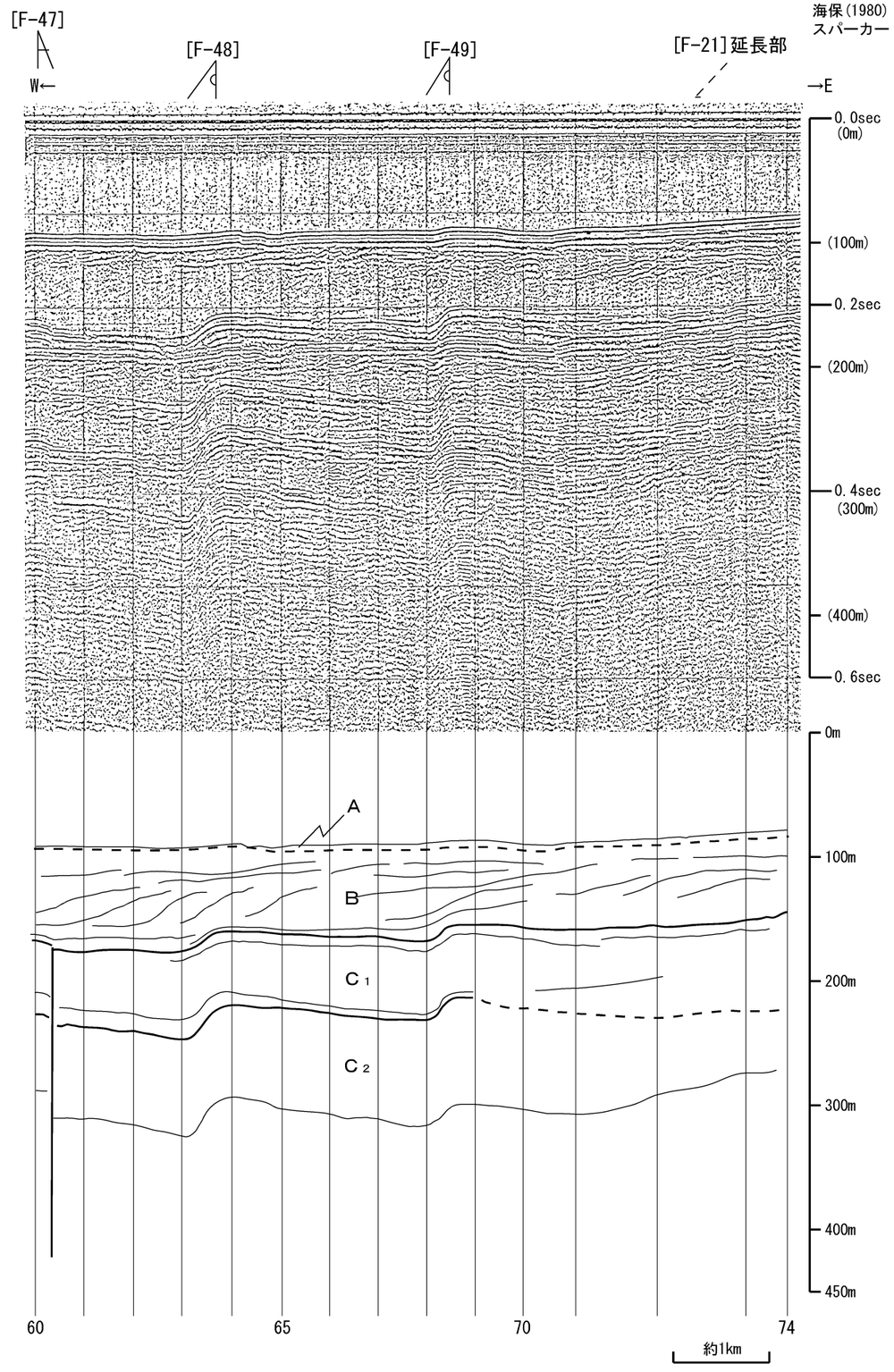
第1.2.3.2.12図　Ｌ－8リニアメント周辺の地質図



第1.2.3.2.7図　Ｌ－4リニアメント周辺の地質断面図

No. 24.5

海保(1980)
スパーカー



音波探査記録は、海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。

地質断面図は、申請者の解釈によるものである。

凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C（C1 C2 C3 C4）　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

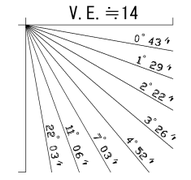
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



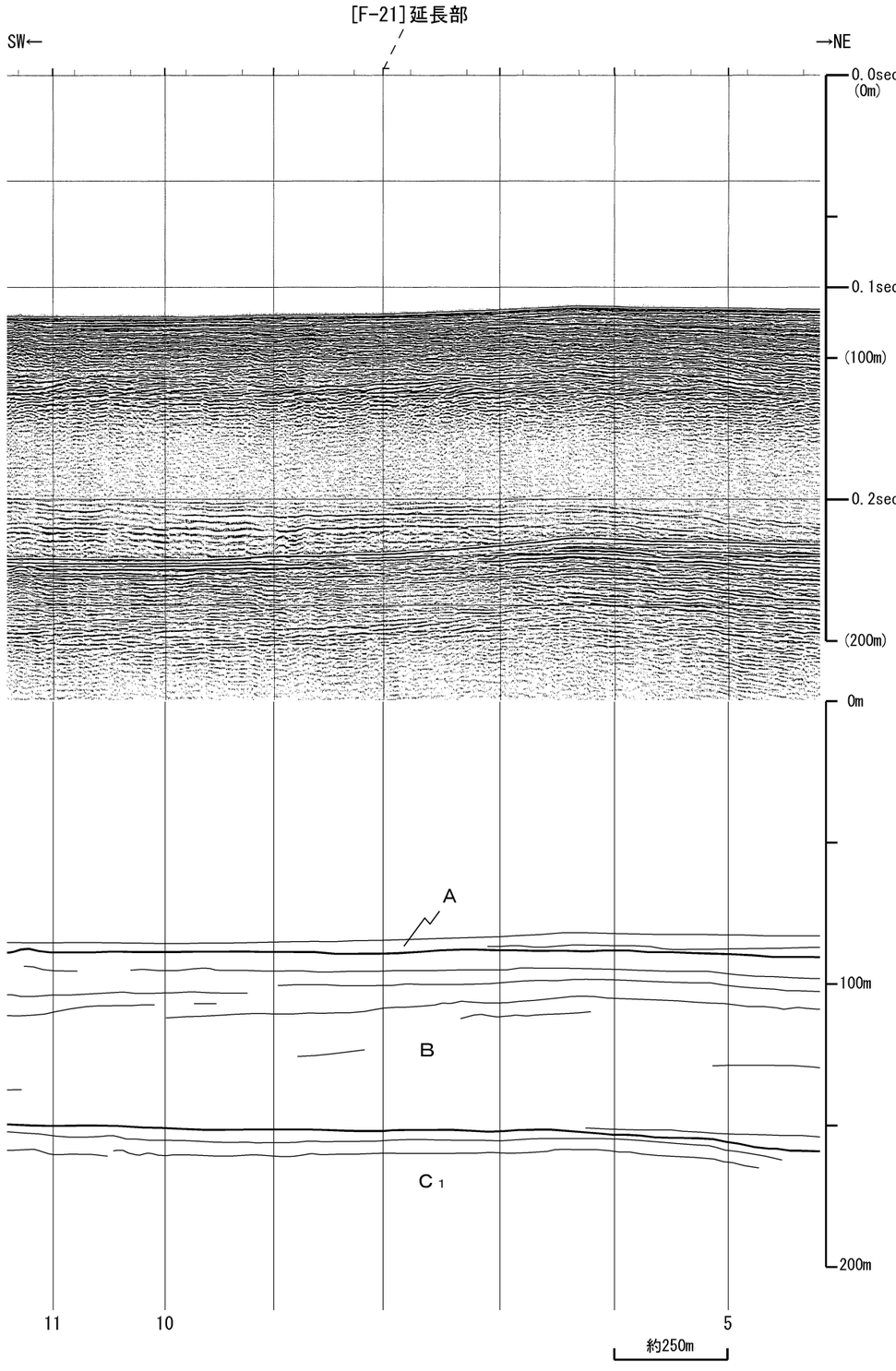
数字（角度）は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.8図(1)　白木－丹生断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.24.5）

NEGM1

日本原電2005
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

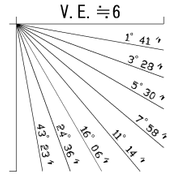
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



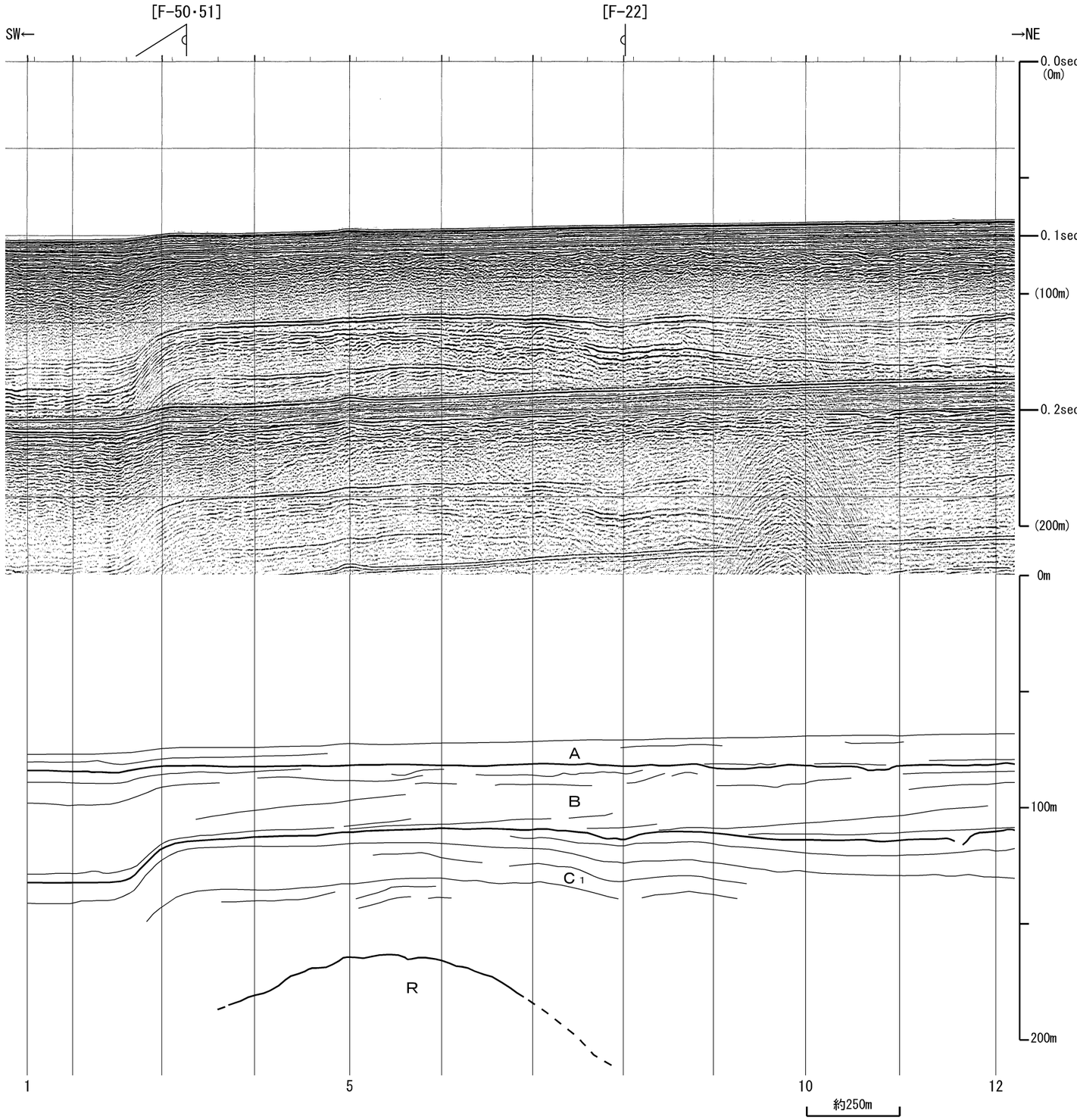
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.8図(2)　白木－丹生断層の海上音波探査記録及び地質断面図（NEGM1）

NEGM6

日本原電2005
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 断層又は撓曲の延長位置

基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

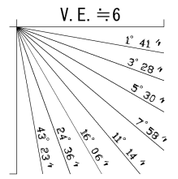
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

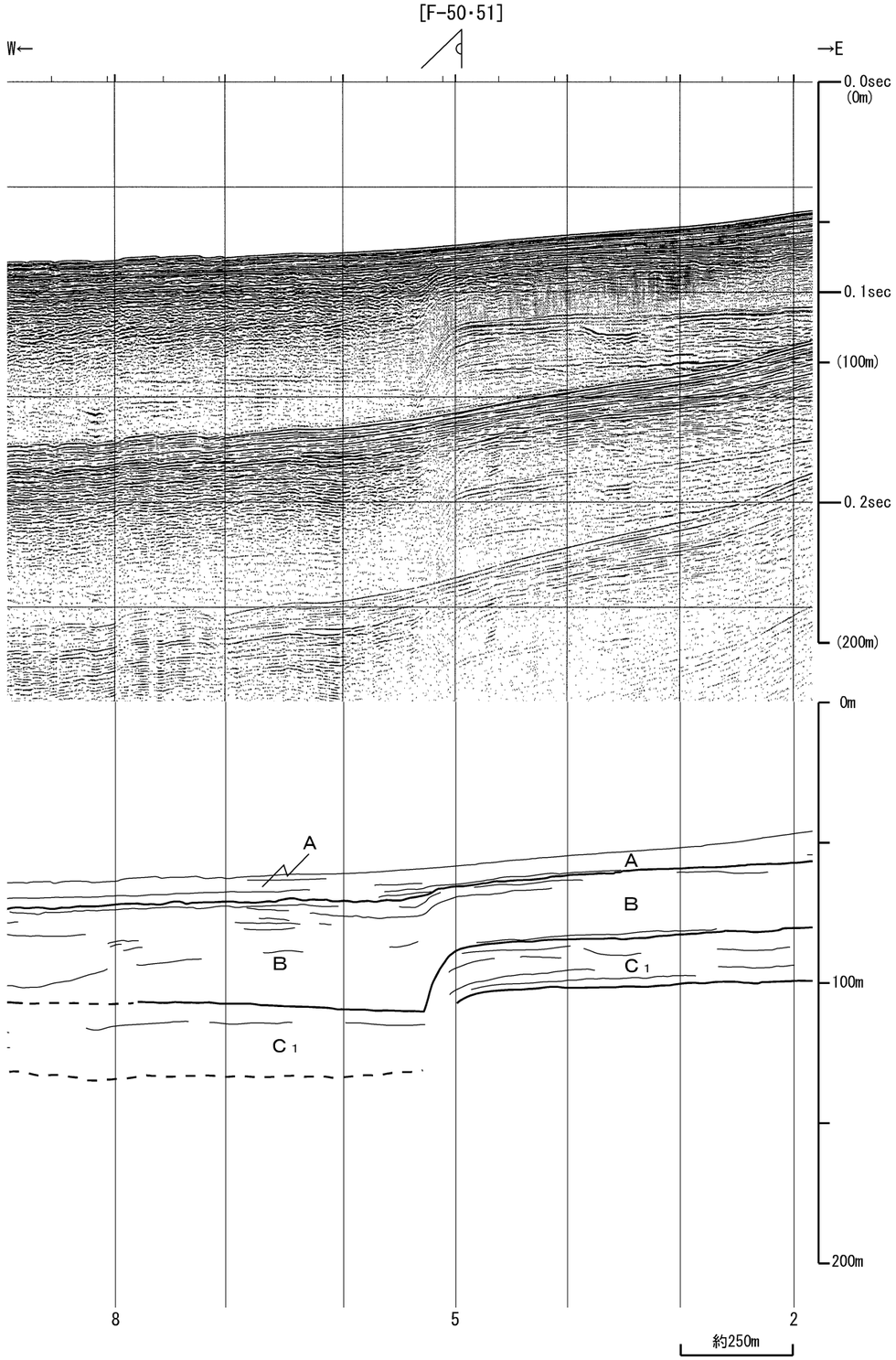
深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.8図(3)　白木－丹生断層の海上音波探査記録及び地質断面図(NEGM6)

J-31.75G

JAEA2007

ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部／頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部／基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

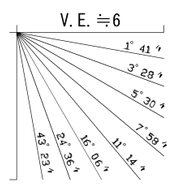
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



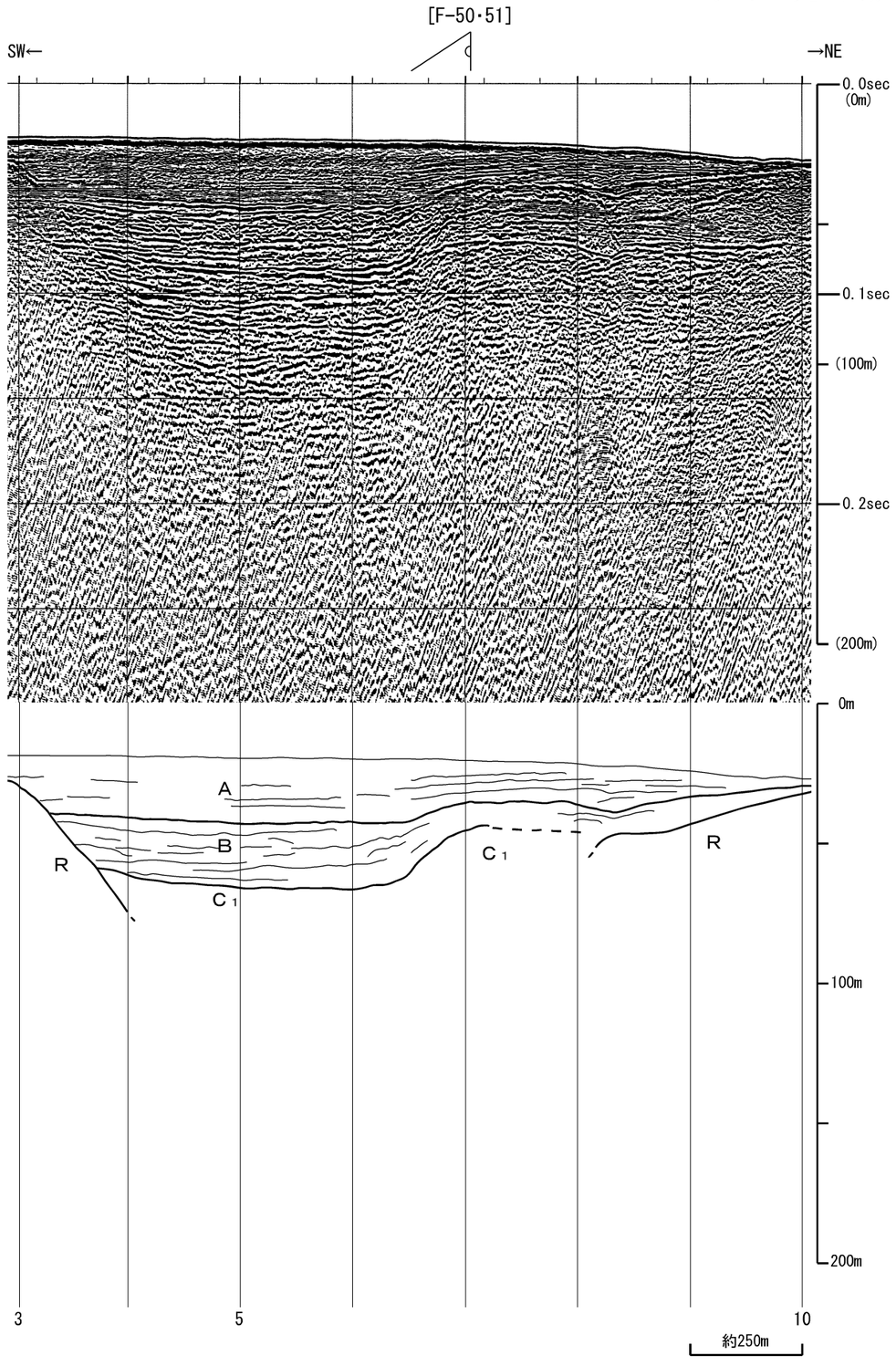
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.8図(4)　白木－丹生断層の海上音波探査記録及び地質断面図（J-31.75G）

J-304.5G

JAEA2013
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 断層又は撓曲の延長位置

基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

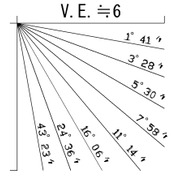
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

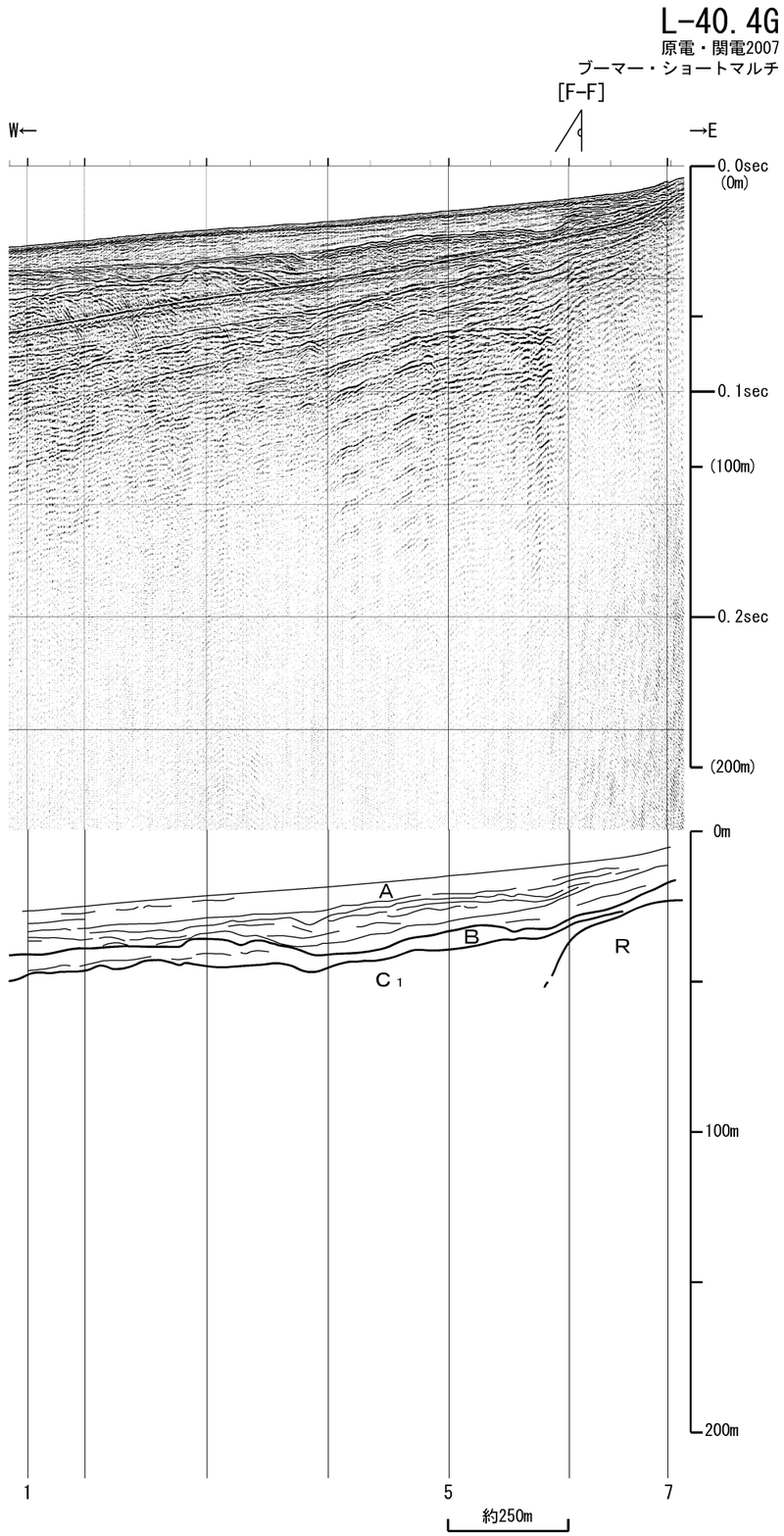
推定地層境界



数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.8図(5)　白木－丹生断層の海上音波探査記録及び地質断面図（J-304.5G）



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

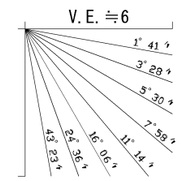
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

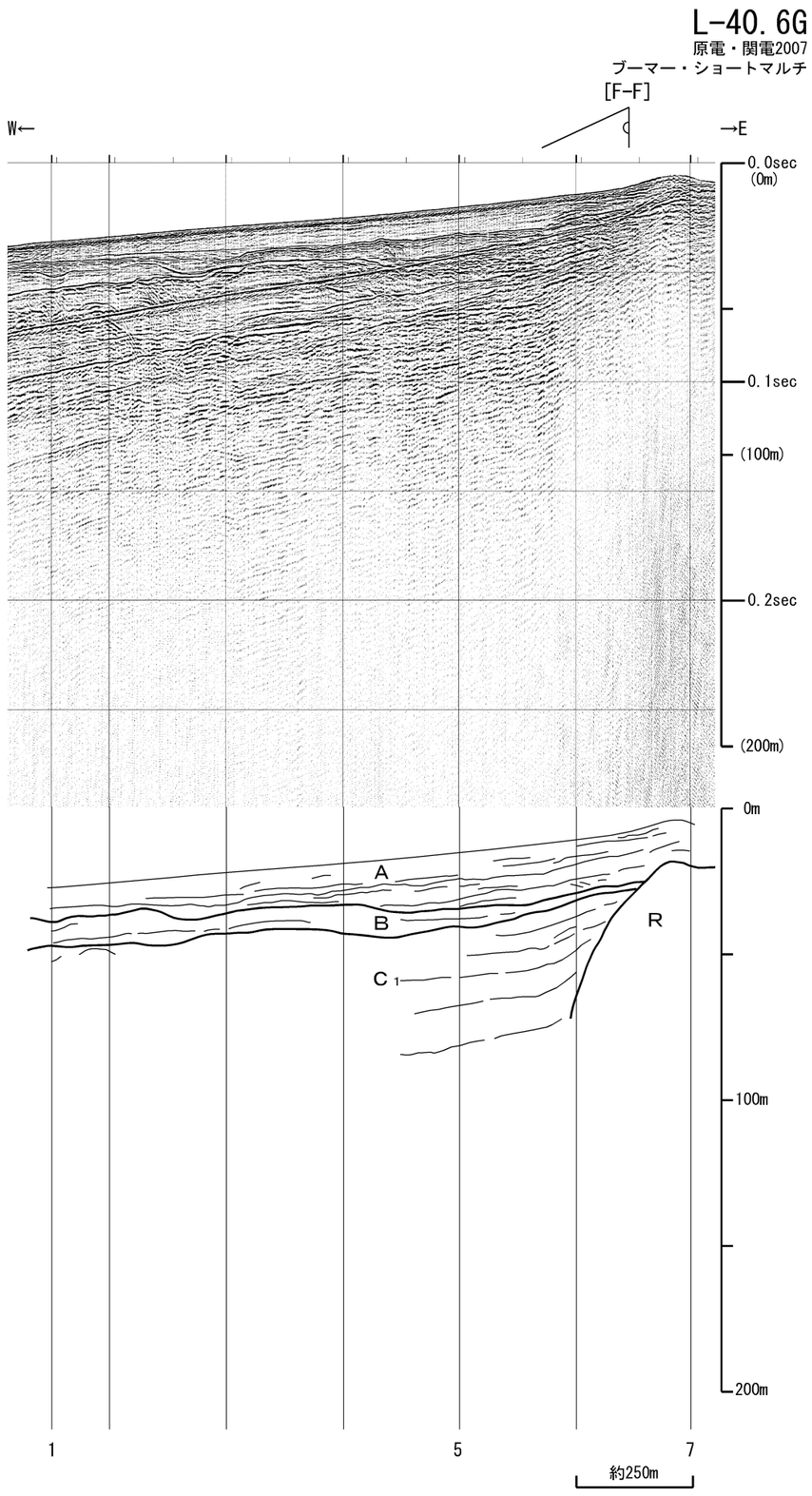
推定地層境界



数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.8図(6)　白木－丹生断層の海上音波探査記録及び地質断面図（L-40.4G）



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部　頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部　断層又は撓曲の延長位置

基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

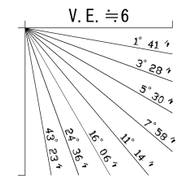
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



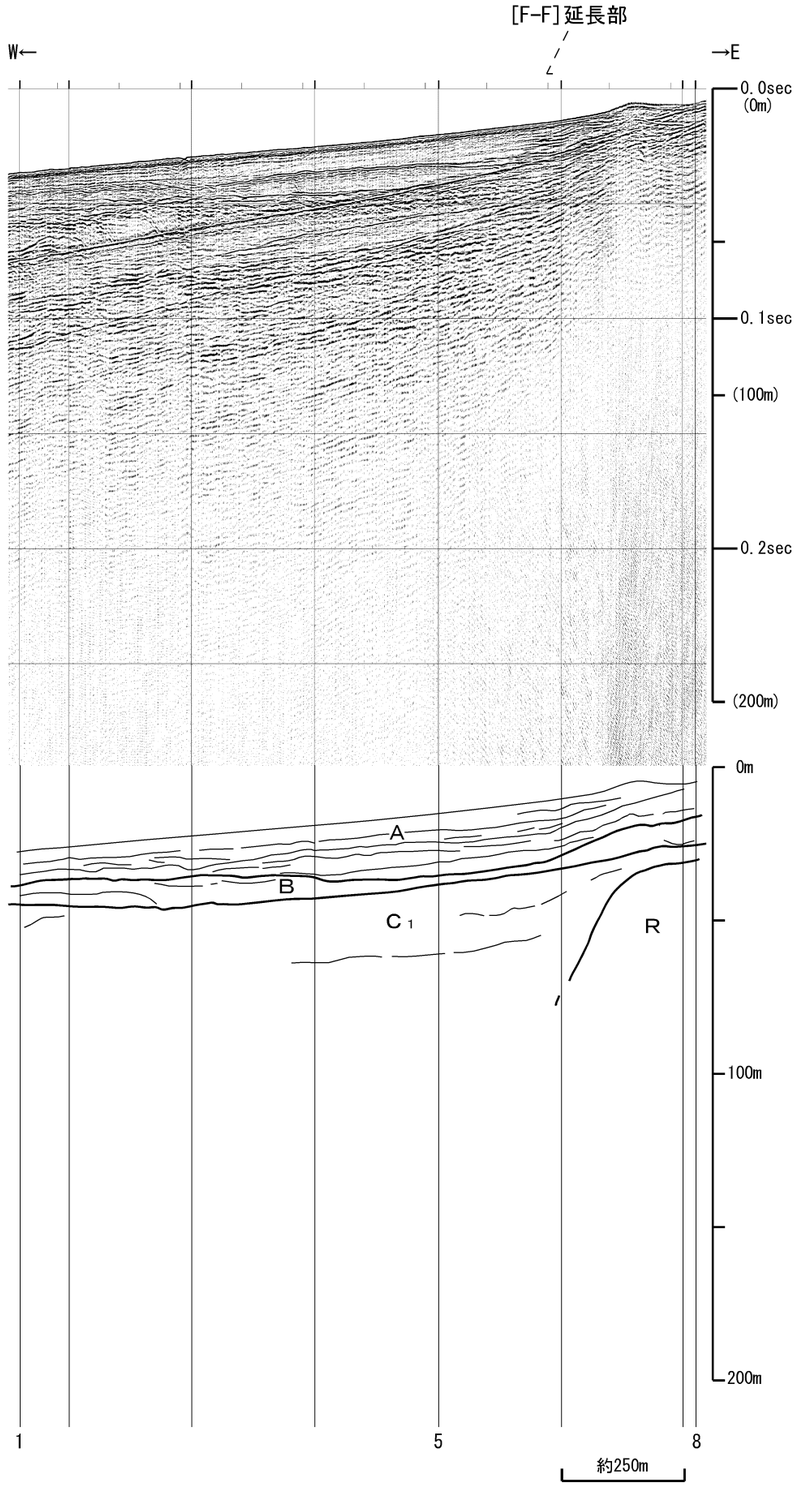
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.8図(7)　白木－丹生断層の海上音波探査記録及び地質断面図（L-40.6G）

L-40.8G

原電・関電2007
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 断層又は撓曲の延長位置

基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

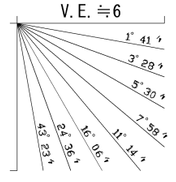
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

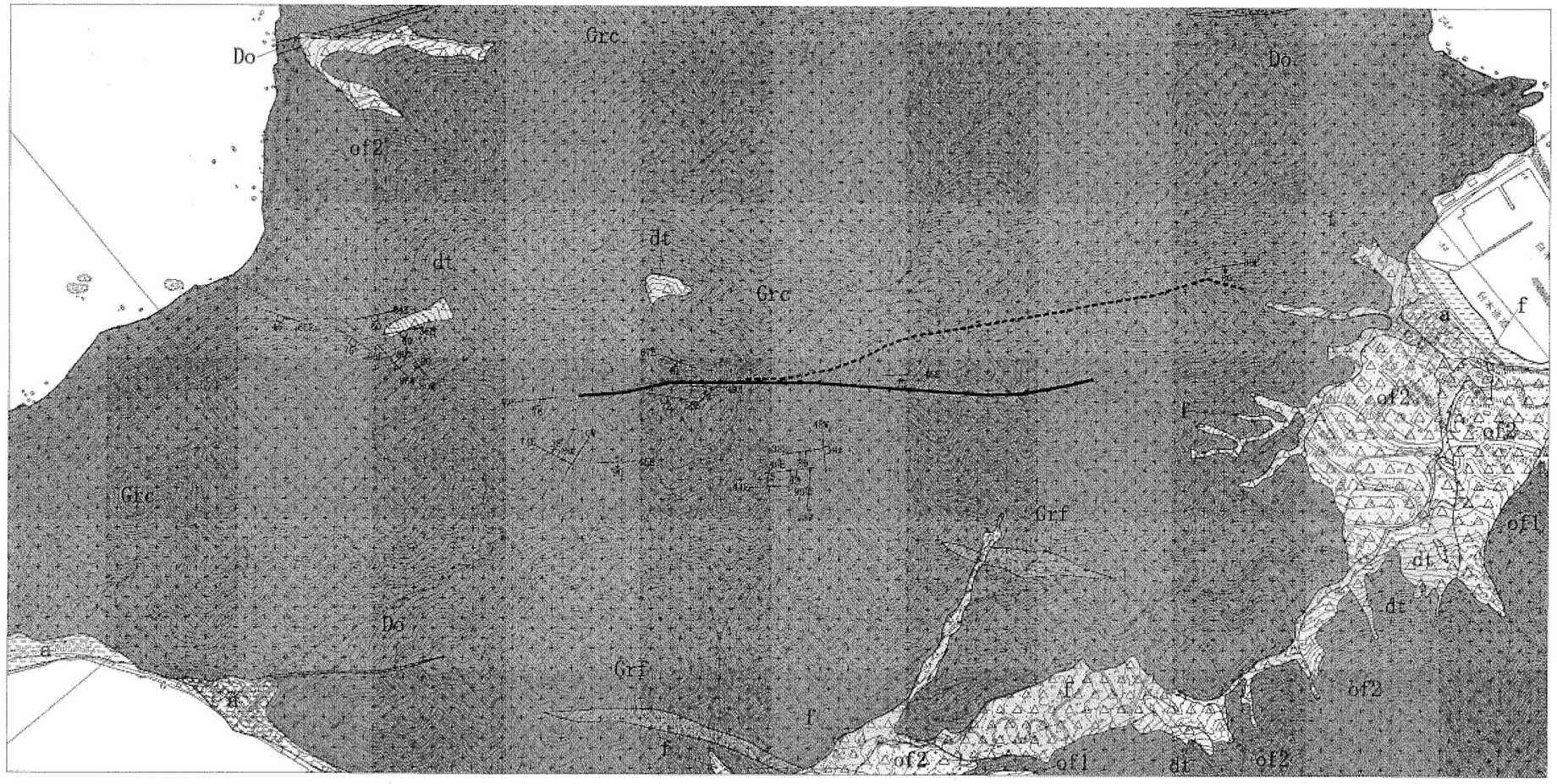
推定地層境界



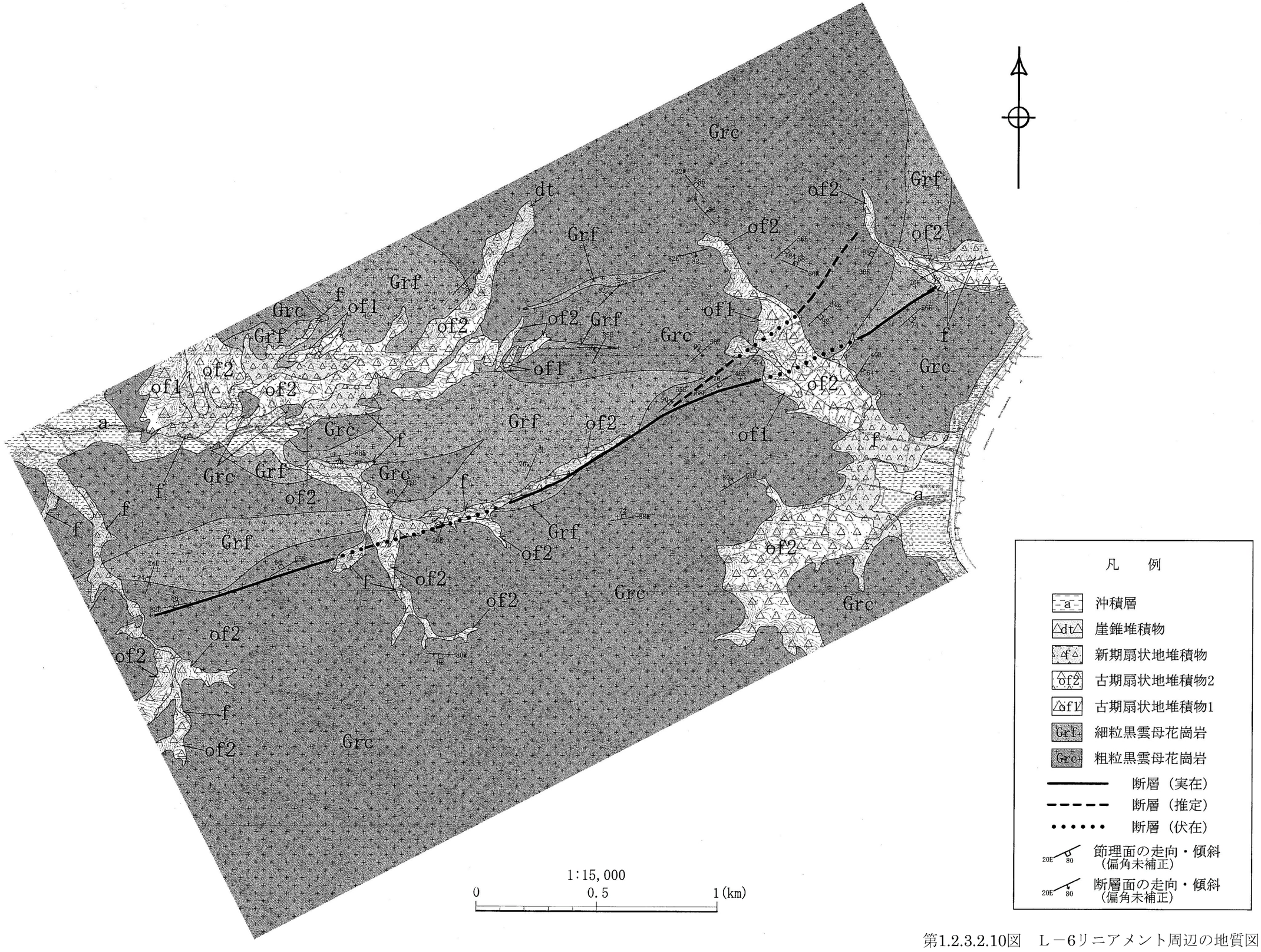
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

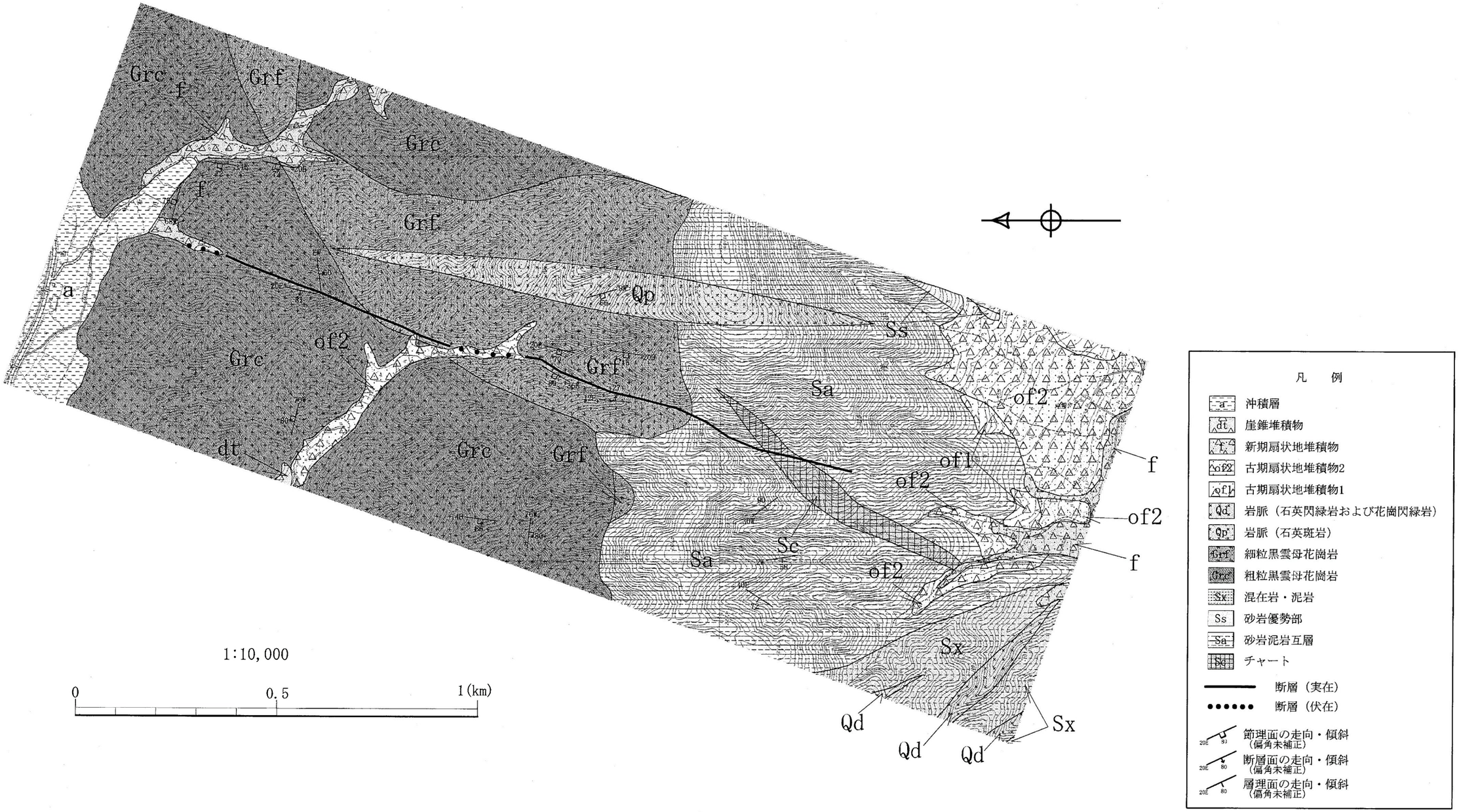
第1.2.3.2.8図(8)　白木－丹生断層の海上音波探査記録及び地質断面図（L-40.8G）



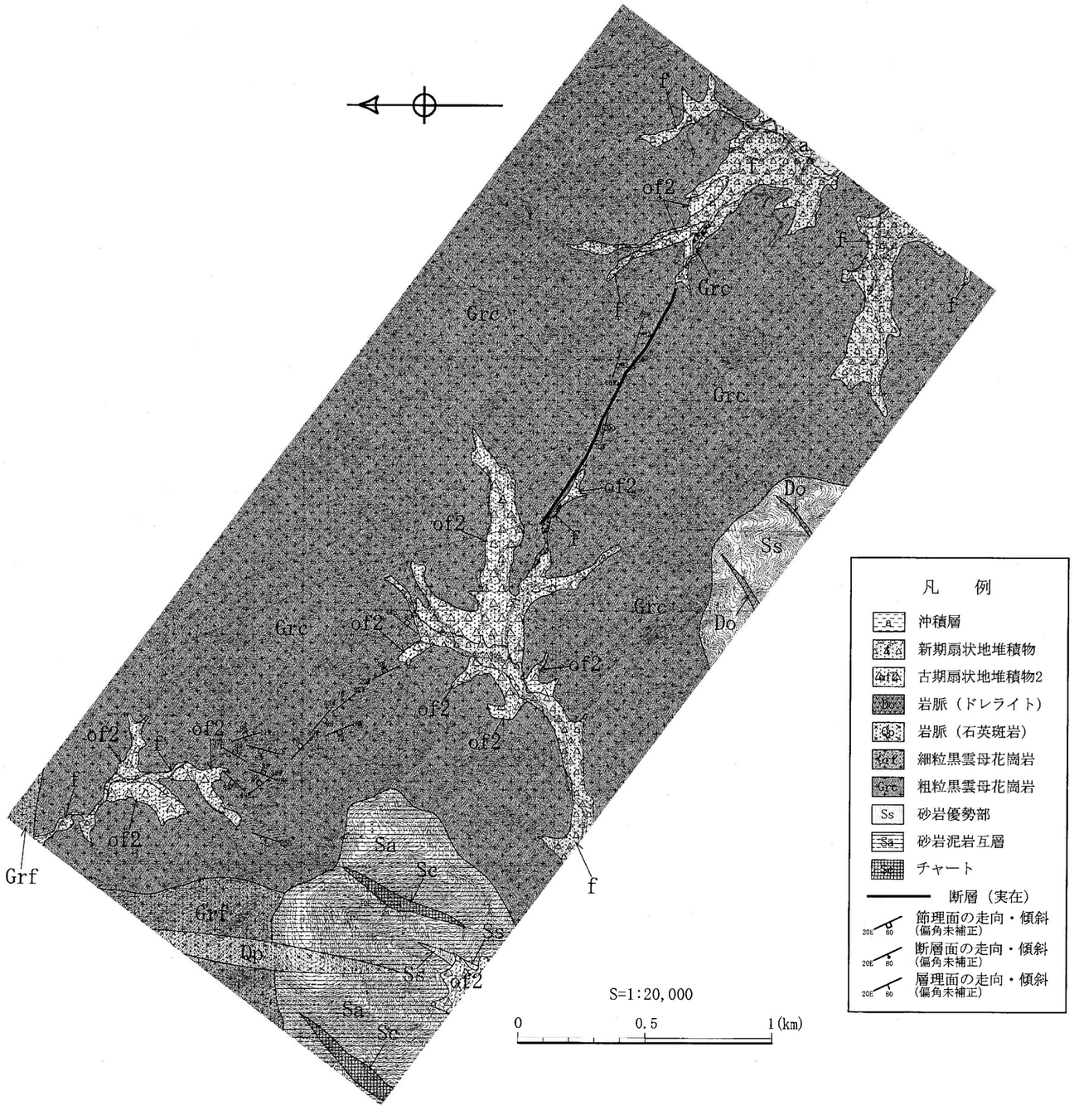
第1.2.3.2.9図　Ｌ－5リニアメント周辺の地質図



第1.2.3.2.10図　Ｌ－6リニアメント周辺の地質図



第1.2.3.2.11図　Ｌ－7リニアメント周辺の地質図



第1.2.3.2.12図　Ｌ－8リニアメント周辺の地質図